



## 目 次



◇ “チェルタルド市研修団報告記によせて”	
甘楽町長 茂原 荘 一	…… 1
◇ “第15次中学生研修団派遣を終えて”	
(公財) 甘楽町国際交流振興協会理事長 富岡 古 男	…… 2
◇ 第15次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団	
<団長報告記> “チェルタルド市訪問を終えて”	
団長 由田 進	…… 3
<名 簿>	…… 5
<受入家庭名簿>	…… 6
<研修団の概要>	…… 8
<研修団員報告記>	…… 20
<随行員・通訳報告記>	…… 40
◇ チェルタルド市の概要	…… 45
◇ 歴代研修団	…… 46
◇ 国際交流年表	…… 60



## チェルタルド市研修団報告記によせて

第15次となるチェルタルド市中学生国際交流研修団の皆さんは、無事に帰国いたしました。

1983年に「一粒の麦」から始まった甘楽町とチェルタルド市との姉妹都市交流は、31年目を迎え、チェルタルド市を訪問した中学生研修団員は1986年の第1次研修団から述べ264人となりました。

過去の研修団から多くの情報が蓄積され、回を重ねるごとにイタリアでの滞在内容も充実して来ていますし、インターネット等の情報化社会の進展により当初とは比較にならないほど多くの情報もあります。

しかし、中学生の皆さんは実際に見て、聞いて、特にチェルタルド市の家庭での体験で得たものは、それとは別なものだと実感したのではないのでしょうか。

言葉も文化も違う家庭の中で、ともに生活し得られる心の温もりや絆を感じられる交流は、国際感覚やグローバルな考え方と同時に中学生たちの将来に世界平和という意識を持たせてくれると確信しています。

また、日本を離れ海外に行くということは、必然とその国の方から中学生の皆さんを通して「日本」や「甘楽町」を理解されるということでもあります。そういった非日常的な環境での経験は皆さんにとって「宝」であり「力」となっているはずです。この「宝」と「力」を持った皆さんのこれからの活躍を大いに期待せずにはられません。

町では、これからも「一粒の麦」がさらにさらに多くの実を結ぶよう「研修の意義」「ホームステイの意義」を踏まえ、姉妹都市交流の一つの柱である本事業をさらに充実させ推進していきます。

最後に、本事業にご尽力をいただいた公益財団法人甘楽町国際交流振興協会、チェルタルド市当局、チェルタルド市国際文化交流推進協会、そしてチェルタルド市の受入家庭の皆さんに、心より感謝申し上げます。

2014年12月

甘楽町長 茂原 莊一



## 第15次中学生研修団派遣を終えて

今回で15回目となる「チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団」派遣事業は、多くの関係者のご支援とご協力により、無事実施することができました。

由田副町長を団長とした研修団の皆様により、甘楽町とチェルタルド市の友好交流に大きな成果を上げることができましたことに改めて厚くお礼申し上げます。

研修団員の皆さんは、チェルタルド市でのホームステイで異国の生活習慣を体験し、ローマ、フィレンツェ、ミラノでの様々な文化遺産の見学などで歴史や文化に触れられたことは、今後の皆さんの人生にとって大きな財産になると思います。ぜひ、研修で感じた国際交流の素晴らしさを周りの方々に伝え、今回の経験を生かしていただきたいと思います。

また、保護者の皆様におかれましては、研修期間中大変ご心配なされたことと思いますが、町のホームページにより、研修団員の様子を見ることができ、とても安心されたことでしょう。

帰国報告会での皆さんの言葉を聞いて、チェルタルド市との友好親善がさらに深められた様子を伺い知るとともに、成長した姿を実感でき、大変喜ばしく思っております。

この中学生研修団の相互派遣は、両市町の友好交流の発展と、国際的視野を広め、国際社会に対応できる青少年たちの健全育成に大きく寄与するものであり、今後の継続と発展を心より願っているところであります。

最後になりましたが、今研修団を派遣するにあたりご協力をいただきました、関係者の皆様に対しまして、心より感謝するとともに、厚くお礼申し上げます。

2014年12月

公益財団法人 甘楽町国際交流振興協会  
理事長 富岡古男



## チェルタルド市訪問を終えて

今回の研修団の団長を仰せつかり、初めてのイタリア訪問ということもあり一抹の不安がありました。予定どおり研修を終え帰町することができました。

8月15日に成田を出発。ローマ視察を経て8月17日の夕方、チェルタルド市に到着。ジャコモ・クチーニ市長、サブリーナ・レッリ国際文化交流推進協会副会長、評議員、市担当者、受け入れ家庭等の皆さんに出迎えて頂き、歓迎式に臨みました。

チェルタルド市の受け入れ体制は、今まで市が中心となっておりますが、今回は国際文化交流推進協会が主になって進めてくれました。

歓迎式では、市長から「このような密な姉妹都市交流は稀である。私は先日市長として初めて甘楽町を訪問したが、議会においてこの交流をサポートし推進して行くことを決議して頂き、今後の交流に貢献するメッセージであると思った。」また、サブリーナ・レッリ協会副会長からは「すでに遠い二つの市町には強い友情の絆が結ばれている。これからは青少年の交流だけでなくもっと広げていきたい。」との友好的な挨拶を頂きました。

子供達はホストファミリーと対面、それぞれの家庭に向かい、いよいよ6泊7日のホームステイの始まりです。

我々は、途中各家庭を訪問させて頂き、子供達の様子を聞きましたが、皆さんとても喜んでくれていました。受け入れ家庭は、受け入れ経験者や子供が来町したことのある家庭など様々でありましたが、とても親切に愛情あふれる対応をして頂き、子供達は言葉も通じない中、生活習慣、食文化等の違いに戸惑いながらも、一生懸命コミュニケーションを図る努力をしてくれたようでした。

チェルタルド最後の夜、今まで甘楽町との交流に係った皆さんが中心となり、お別れ夕食会を開催してくれました。夕食会は、最初に主催者である協会副会長の挨拶、その後直ぐに食事が始まり歓談後、いよいよ市長の挨拶です。市長から「この交流は大変意義深いもの」とのお話も頂きました。私からもお礼を申し上げ、最後に子供達が皆さんへのお礼として歌「花は咲く」と踊り「ソーラン節」を披露。特に東日本大震災の復興ソングである「花は咲く」は好評で、終わった後の歓声と拍手はしばらく鳴り止みませんでした。これは、この訪問が皆さんに喜んで頂けたのだと実感した瞬間でした。大変すばらしい会となり終わったのは0時を過ぎていました。

また、我々は、チェルタルド滞在中に、経済交流の一環として道の駅「甘楽」で販売しているワイン、オリーブオイルの醸造工場や甘楽町との交流の歴史でもある記念の施設等の視察を



行いました。また、視察先の「上の街」では、我々が日本人であることが分かると声を掛けてくれ、甘楽町から来たことを話すと甘楽町を知っており、いろいろな話をしてくれました。私は、今回の訪問で、チェルタルド市の皆さんがこの交流をどう感じているのか直接確かめたいという思いもありましたので、これらの体験は、30年の交流の歴史を感じたところでありました。

チェルタルド市は、昨年、国際文化交流推進協会が発足、そして、今年新市長が就任され、新しい体制となり初めての研修団の受け入れとなりましたが、私は、市長や協会の方々との懇談の中で「今後さらなる交流の拡大に努力したい。」との話を伺い、この交流がますます盛んになることを確信し、今回の訪問が新しい交流の第一歩になったと感じたところであります。8月23日、チェルタルド出発の朝、日本とイタリアの国旗があるロータリー前の駐車場に集合。受け入れ家庭、市・協会の皆さんに見送りして頂き、お世話になった方々と最後のお別れをしてミラノへ向かいました。

今回は、チェルタルド以外の訪問先としてローマ、フィレンツェ、ミラノの都市を視察しましたが、さすが世界遺産登録数世界一の国だけあり、到る所に歴史を感じさせる建造物が見られ、その壮大なスケールに圧倒されました。

最後になりますが、私は、出発前の壮行会で「全員が笑顔のお土産を持って帰ってきたい」と挨拶をさせて頂きました。その言葉どおり全員が揃って無事帰町できましたことに安堵するとともに、子供達にはこの貴重な経験を無駄にすることなく、これからの人生に役立ててほしいと思っております。また、この研修でお世話になりました皆さんに感謝を申し上げ、帰町報告といたします。

団長 由 田 進



お別れ夕食会でクチャーニ市長（中央）、レツリ副会長（右）と

《第15次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団員名簿》

No.	所属	氏名	性別	住所	備考
1	団長	由田進	男	甘楽町大字上野	副町長
2	随行員	猿谷朋子	女	富岡市下高瀬	町職員
3	随行員	小林俊明	男	甘楽町大字白倉	都市農村交流協会職員
4	通訳	一ノ瀬俊和	男	東京都稲城市矢野口	国立音楽大学教授

No.	所属	氏名	性別	住所	保護者
1	一中1-3	三木旭	男	大字小川	達也
2	一中2-1	齊藤陸都	男	大字小川	智美
3	一中2-1	鶴田奈々	女	大字天引	稔
4	一中2-1	廣田若夏	女	大字福島	祐司
5	一中2-2	石川由莉奈	女	大字金井	和彦
6	一中2-2	山田桃花	女	大字金井	知利
7	一中3-1	松井亮	男	大字白倉	清美
8	一中3-2	鈴木志音	男	大字小川	悦子
9	一中3-2	松浦匠	男	大字白倉	雅岳
10	二中1-A	新井七海	女	大字小幡	文宏
11	二中1-A	郡山ももか	女	大字小幡	哲
12	二中1-A	富岡沙彩	女	大字善慶寺	隆一
13	二中2-A	佐野暁寿	男	大字小幡	成寿
14	二中2-A	細谷遥香	女	大字小幡	伊久男
15	二中2-B	松田真帆	女	大字善慶寺	高司
16	二中3-B	山田真奈美	女	大字小幡	剛

## 《第15次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団受入家庭名簿》

No.	所属	氏名	世帯主(名・姓)	妻(名・姓)	子供(名)	性別	年齢	備考
1	1中 1-3	三木 旭	ファービオ・モンタニャーニ	バルバラ・サンピエートウリ	JACOPO(ヤーコボ)	男	12	
2	1中 2-1	齊藤 陸都	FABIO MONTAGNANI(地質学者)	BARBARA SAMPIETRI(看護師)	YURI(ユーリ)	男	12	
3	1中 3-1	松井 亮	トネットウ・ナルディ・ミカエル	メアリー・ディ・フェーボ	PIETRO(ピエートロ)	男	9	
4	2中 2-A	佐野 暁寿	TONET NARDI MICHAEL(建築家)	MARY DI FEBO(広告グラフィック技術者)				
5	1中 3-2	鈴木 志音	ダンテ・ネーズィ	ブルネッラ・オルシ	FIAMMETTA(フィアンメッタ)	女	21	
6	1中 3-2	松浦 匠	DANTE NESI(医師)	BRUNELLA ORSI(主婦)	REBECCA(レベッカ)	女	17	
7	1中 2-1	鶴田 奈々	ルチャーノ・カポダルカ	サブリーナ・ゴーリ	SARA(サーラ)	女	13	
8	1中 2-1	廣田 若夏	LUCIANO CAPODARCA(企業家)	SABRINA GORI(会社員)	LISA(リーザ)	女	11	
9	1中 2-2	石川由莉奈	ダーヴィデ・ピアッツィーニ	チェチーリア・モロッキーシ	SARA(サーラ)	女	9	
10	1中 2-2	山田 桃花	DAVIDE PIAZZINI(職人)	CECILIA MORROCCHESI(会社員)	EVA(エーヴァ)	女	0	
11	2中 1-A	新井 七海	エマヌエーレ・ナッチ	パトゥリーシア・ダニエーラ・バルレーラ	EMANUELA(エマヌエーラ)	女	15	
12	2中 1-A	郡山ももか	EMANUELE NACCI(代理人)	PATRICIA DANIELA BARRERA(主婦)	VALENTINA(ヴァレンティーナ)	女	13	
					MARTINA(マルティーナ)	女	11	
13	2中 1-A	富岡 沙彩	ニコラ・ブオノコーレ	ミヨコ・イナバ	ENZA(エンツァ)	女	12	
14	2中 2-A	細谷 遥香	NICOLA BUONOCORE(建設業職人)	MIYOKO INABA(主婦)				
15	2中 2-B	松田 真帆	マルコ・ゼッキ	パトリッツィア・カスプリーニ	BARBARA(バルバラ)	女	20	
16	2中 3-B	山田 真奈美	MARCO ZECCHI(放射線専門医)	PATRIZIA CASPRINI(医療技師)				

: H26年度 第8次甘楽町訪問チェ市青年使節団員

## ホストファミリーの皆さんとの思い出の写真



ファービオ・モンタニャーニ さん 宅  
〈 三木 旭 ・ 齊藤 陸都 〉



トネットウ・ナルディ・ミカエル さん 宅  
〈 松井 亮 ・ 佐野 暁寿 〉



ダンテ・ネズィ さん 宅  
〈 鈴木 志音 ・ 松浦 匠 〉



ルチャーノ・カポダルカ さん 宅  
〈 鶴田 奈々 ・ 廣田 若夏 〉



ダーヴィデ・ピアッツィーニ さん 宅  
〈 石川 由莉奈 ・ 山田 桃花 〉



エマヌエレ・ナッチ さん 宅  
〈 新井 七海 ・ 郡山 ももか 〉



ニコラ・ブォノコレ さん 宅  
〈 富岡 沙彩 ・ 細谷 遥香 〉



マルコ・ゼッキ さん 宅  
〈 松田 真帆 ・ 山田 真奈美 〉



## 第15次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団の概要

- 4月8日(火) 研修団員募集開始
- ~4月28日(月) (応募生徒数34名)
- 5月2日(金) 各中学校より研修団員の推薦
- 5月14日(水) 研修団員選考委員会開催
- 5月23日(金) 団員選考抽選会(16名決定)
- 5月26日(月) 団員決定通知交付
- 6月6日(金) 第1回打合せ会議開催(甘楽町文化会館)
- 7月16日(水) 第2回打合せ会議開催(甘楽町公民館)
- 7月23日(水) } 団員事前研修会(ら・ら・かんら)
- 25日(金) } 講師:一ノ瀬俊和氏
- 26日(土) }



イタリアについて解説する一ノ瀬講師



研修終了後に余興練習

- 8月12日(火) 第3回打合せ会議開催(壮行会終了後)

### 【第15次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団行程】

- 8月15日(金) 晴れ
- 4:50 甘楽町役場出発
- 8:30 成田空港着



成田空港に到着



チェックインカウンターに移動します

- 10:20 成田空港発(KL862便)
- (現地時刻)14:50 アムステルダム スキポール空港着(経由)
- 17:40 アムステルダム スキポール空港発(KL1607便)
- 19:50 ローマ フィウミチーノ空港着(日本との時差 -7時間)
- 21:00 ホテル着

21:30 ローマ市内のレストラン「MANGROVIA」で夕食



イタリアでの最初の食事です



メニューはパスタでした

○ 8月16日(土) 晴れ

7:00 ホテルにて朝食

8:00 ホテル発(ヴァチカン市国観光)



ヴァチカン美術館



サン・ピエトロ大聖堂前

11:15 ローマ市内レストラン「OPERA」で昼食

14:00 ローマ市内観光



コロッセオ前



スペイン広場

19:00 ローマ市内のレストラン「MINO」で夕食

21:00 ホテル着

○ 8月17日(日) 晴れ

7:00 ホテルにて朝食



8:00 ホテル発(ローマ市内観光)



トレビの泉(工事中でしたがコインは投げられました)



サンタ・マリア・イン・コスメティン教会にある「真実の口」

11:30 ローマ市内のレストラン「Scoglio di Frisio」で昼食

13:30 チェルタルド市に向けてローマを出発(約4時間のドライブ)

17:30 チェルタルド市に到着

対面式(「イ・マチェッリ」青年センター)

<歓迎式・対面式出席者(チェルタルド市)>

ジャコモ・クチーニ市長、クララ・コンフォルティ評議員、サブリーナ・レッチ国際文化交流推進協会副会長、シモネッタ・マリアーニ市担当職員、エボ・チャボ国際文化交流推進協会、ホストファミリー



大勢の関係者が迎えてくれました



甘楽町に来町していた青年使節団員と再会



ウェルカムドリンクをいただきます



ジャコモ・クチーニ市長あいさつ



サブリーナ・レッチ副会長あいさつ



由田団長あいさつ



ホストファミリーと対面です



車に乗って受入家庭へ向かいます

18:50 団長、随行者、通訳(以降「団長以下4名」、宿泊ホテル「ラティーニ」着

20:30 団長以下4名、ホテルにて夕食

○ 8月18日(月) 晴れ

※団員は終日受入家庭で過ごす

9:30 団長以下4名、ホテル発(サン・ジミニャーノ見学)

ワイン農園会社Poggio Regini社訪問及び昼食



社長によるワイン造りの説明



大きなワイン樽がたくさんありました

15:30 チェルタルド市へ移動

16:00 オリーブオイル製造所Valdelsano社を見学



オイルの製造工程を見学



オイル貯蔵タンク

20:00 サブリーナ・レッチ国際文化交流推進協会副会長主催で夕食会

23:50 ホテル着

○ 8月19日(火) 晴れ

※団員は終日受入家庭で過ごす

8:00 団長以下4名、ホテル発(トッレ・デル・ラーゴ見学)



作曲家ジャーコモ・プッチーニの家と野外劇場を見学



プッチーニ銅像前



プッチーニフェスティバルが行われる野外劇場

11:30 トッレ・デル・ラーゴを出発し、コロナータへ移動

13:20 レストラン「Osteria nella Pia'srl」で昼食

15:30 ラルド製造所訪問



ラルド製造所



街の裏には山がそびえ立ちます

20:30 市職員ダニエーラ・チュッリさん宅で夕食

23:30 ホテル着

○ 8月20日(水) 晴れ

8:30 団長以下4名、朝市で前市長アンドレア・カンピノーティ氏と面会



前市長(左)と由田団長



朝市では新鮮な食材が売られていました

9:40 市庁舎にて歓迎式

【チェルタルド市出席者】

ジャコモ・クチーニ市長、フランチェスコ・デイ副市長、クララ・コンフォルティ評議員(交流担当)、ヤコポ・アツリゴーニ評議員、フランчесスカ・ピノーキ評議員、ピエーロ・ディ・ヴィータ評議員、シモネッタ・マリアーニ市担当職員、ホストファミリー



歓迎式の様子



市長による歓迎のあいさつ

○ジャコモ・クチーニ市長あいさつ

先頃、市で選挙があり新体制となりましたが、(甘楽町との)交流は変わりません。ご存知のように30年間で200人以上の受入、チェルタルド市からも90名近く派遣しています。甘楽町との友情の絆が結ばれ、個人レベル、甘楽町・チェルタルド市、日本・イタリアに広げていければと思います。今後もぜひこれまで培ってきた交流を推進して行きたい。青年使節団の交流については、協会が中心となっており行われているので、甘楽町の国交振とも協力し、さらに新しい一歩を進めて行きたい。甘楽町の研修団員の皆さん、ぜひ楽しい滞在をしてよい思い出を作ってください。



チェ市側からもらった赤い帽子



みんなよく似合っています

10:30 終了後、団員は各受入家庭へ

11:00 団長以下4名は市内のワイン農園会社F. Ili Vagnoni社訪問

13:30 市内のワイン農園会社Poggiagrilli社訪問・昼食



ワイン貯蔵庫



ジャコモ・ルチーニ社長(右)と小林随行員



15:30 受入家庭訪問



旭と陸都(ファービオ・モンタニャーニさん宅)



二人は「楽しくて仕方ない」と言っていました

16:00 市内のワイン農園会社POGGIO DELLE CIVETTE社訪問

17:00 受入家庭訪問再開



亮と暁寿(トネットウ・ナルディ・ミカエルさん宅)



折り紙を教えています



由莉奈と桃花(ダーヴィデ・ピアッツィーニさん宅)



沙彩と遥香(ニコラ・ブォノコーレさん宅)

20:00 団長以下4名、家庭訪問先のニコラ・ブォノコーレさん宅で夕食

23:00 ホテル着

○ 8月21日(木) 晴れ

8:30 チェルタルド市発(受入家庭の皆さんと一緒に電車でフィレンツェ見学へ)

10:00 団長以下4名、車でフィレンツェに到着して団員と合流し、街を見学



フィレンツェに到着しました



ウフィッツィ美術館





ポンテ・ヴェッキオ橋



ドゥオーモ前

13:30 団員は市内のレストランで受入家庭と昼食をとり、引き続きフィレンツェの街を見学  
団長以下4名は団員と別れ、レストラン「Hostaria il desco」で昼食



ポルチェッリーノ(子豚)と呼ばれるイノシシ像



いたるところに土産屋があります

18:00 団員は電車でチェルタルド駅に到着し、受入家庭に帰宅

団長以下4名は車でチェルタルド市に到着

20:00 団長以下4名、ヴェッキアレツリ・ファービオさん宅で夕食

23:00 ホテル着

○ 8月22日(金) 晴れ

8:00 団長以下4名、ホテル出発し、市内のワイン農園会社Podere Strada社を訪問

9:20 受入家庭訪問



真帆と真奈美(マルコ・ゼツキさん宅)



七海とももか(エマヌエレ・ナッチさん宅)



奈々と若夏(ルチャーノ・カポダルカさん宅)



志音と匠(ダンテ・ネズィさん宅)

14:00 団長以下4名、家庭訪問先のダンテ・ネズィさん宅で昼食



サーベルによるシャンパン開け



美味しい手料理でもてなしていただきました

19:00 「イ・マチェッリ」青年センターで演劇を鑑賞

20:30 お別れ夕食会(ポーリ・ヴァレンティにて)

※チエルタルド市関係者、ホストファミリーの皆さんと一緒に



(左から)由田団長・市長・コンフォルティ評議員・議長



大勢の皆さんが出席してくれました

○国際文化交流推進協会サブリーナ・レツリ副会長あいさつ

一週間の滞在で素晴らしい交流ができました。今回は、国際文化交流推進協会が中心となって受入を行いました。今後も当協会がこの交流を通じて、(甘楽町との関係を)将来に向かってさらに強固なものになるようにしていきたいと思ひます。



テーブルにごちそうが並びます



協会の方による手料理



「花は咲く」合唱



ソーラン節を披露





合唱と踊りに皆さんよろこんでくれました



団員を代表して松井くんがあいさつ



ホストファミリーに法被をプレゼント



チェ市の子どもたちと一緒にダンス

24:30 お別れ夕食会終了

○ 8月23日(土) 曇り時々雨のち晴れ

7:30 交流25周年記念モニュメントがあるロータリー前の駐車場集合

(受入家庭の皆さんと笑顔で別れのあいさつを交わし、再会を誓いました)



昨晚プレゼントした法被を着てきてくれました



お世話になりました



お別れはさみしい



再会を誓い合いました



あっという間にバスに乗る時間です



Ci vediamo !

- 7:50 別れを惜しみながらチェルタルド市を出発
- 12:30 ミラノ到着、市内のレストラン「ANTICA OSTERIA DI VIA GLUCK」で昼食
- 13:50 ミラノ市内見学



ガッレリア



ドゥオーモ

- 18:50 市内のレストラン「AL GALILEO」で夕食
- 20:00 ホテル着

○ 8月24日(日) 晴れ

- 8:00 ホテル発
- 8:30 ミラノ リテーナ空港着



スーツケースを預けます



飛行機に搭乗

- 10:55 ミラノ リテーナ空港発(KL1620便)
- 12:50 アムステルダム スキポール空港着(経由)
- 14:40 アムステルダム スキポール空港発(KL861便)



- 8月25日(月) 曇り
- (日本時刻)8:30 成田空港着
- 10:10 成田空港発



スーツケースは宅配便で自宅へ



バスに乗って甘楽町へ向かいます

- 14:40 甘楽町役場着
- 由田団長より無事帰国の報告
- 町長より労いの言葉をいただき解散



町役場に到着



帰町報告する由田団長

- 10月2日(木) 帰国報告会(ら・ら・かんら)





# 研修団員報告記



## イタリア報告記

1中 1年3組  
三木 旭

ぼく達は、主に3つの場所に行きました。まず最初はローマです。ローマは、古代の建造物が多く残り、レンガ造りなどの家が並び、日本とは違う雰囲気のある所でした。中でも印象に残っているのが、コロッセオです。古代ローマの古い建造物ですが、ほぼ手を加えず、当時のそのままに残っているという事に、すごいと感じました。中は、日陰が多くてとても涼しく、水道管が設備されていたり、観戦席は、今のイベントホールのようにA席やB席などがあり、古代ローマの人は、今と変わらない事を既にしていて、なんて頭のさえた人々なんだろうと思いました。また、階段は非常に急な造りでとても疲れました。



▲ヴァチカン美術館へ向かいます

二つ目は、チェルタルドの待ちに待ったホームステイです。ホームステイ先は、ファービオ・モンタニャーニさん宅でした。ぼく達は、毎日サッカーやバスケットボールなどをして遊び、また初めてのピザ作りなども体験しました。レストランでは、「日本の甘楽町の人だ」と言われ、甘楽町とチェルタルドの長い交流の証だと思いました。今までチェルタルドに行った人が、帰りたくないと言っていた事が良く分かりました。

でも大変だったこともあります。それは、日本とイタリアの生活の違いでしょうか、昼

食と夕食の時間の事です。日本では、昼食は十二時頃でしたが、イタリアは、二時頃なので、お昼までの時間がとても長くお腹がとてもすいていました。なので夕食の時間もずれていつも九時頃なので、夜はとてもねむかったです。

でもホームステイ先の家族は、とても良い家族で、忘れられない時を過ごすことができ最高の思い出になりました。その分、お別れの時は、非常に悲しくまだ帰りたくない気持ちになりました。



▲受入家庭宅のガレージにて

三つ目は、ミラノです。ミラノでは、レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晚餐」が一番、印象に残っています。最後の晚餐は、ダ・ヴィンチが八年をかけた作品だそうです。とても湿度に弱い画法で描かれていて、第二次世界大戦の時も、大空襲の中で、最後の晚餐の壁だけが残った作品だと知りました。この作品は、ここに来なければ、観られない作品なだけに本当に観る事ができて、今日まで残っている過程を知ると多くの人々の苦勞も感じ、これからも守り残していけないといけない素晴らしい作品だと思いました。

僕は、このチェルタルド研修を通して、ホームステイ先でのレストランのように、チェルタルドの人達が日本の甘楽町の事を知っている、逆に甘楽町の人達がチェルタルドの事を知っているという事は、何十年も、多くの人が交流をする中で、つちかわれてきた小さな、そして多くの積み重ねの中にあるのだと思いました。この関係を甘楽町と、チェルタルドから日本とイタリアへと大きな信頼関係へとつながっていく事ができたらいいと思いました。

今回こうして、企画し研修団員として、行かせてくださった甘楽町の方々や両親にも感謝し、この経験を忘れずに、これからの長い人生に活かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。



## 海外研修で 学んだこと

1中 2年1組  
齊藤 陸 都

まず、なぜこのチェルタルド市訪問に行こうと思ったかそれは、海外の食文化の違いや生活習慣の違いを学びたかったからです。

僕は、今回の海外訪問でたくさんのことを学びました。

一つ目は、古代遺産が今でも残っているローマです。行ってすぐにおどろいたのは、バスに乗って少し走っただけで日本では、見られないような教会や噴水がたくさんあり、本当に古代ローマの人たちが造ったのかと疑うようなすばらしいものばかりでした。

そして、ローマには、スペイン広場、トレビの泉がありました。

スペイン広場では、テレビや本で見たことがあり、ゆっくりとできると思っていたのですが、スリなどに注意しながらの見学だったので不安で日本ではないようなきんちょうをしました。あと、トレビの泉では、工事中で直接はコインが投げられませんが、ぼんやりとトレビの泉の姿が見えたので良かったです。ここでも朝早くから警察がいたのでとてもおどろきました。それと、真実の口です。自分が思っていたよりもはるかに大きくておどろきました。

そして、僕がローマで一番印象に残っているのは、やっぱりコロッセオです。僕は実際にコロッセオを見てとても大きくこわれにくいとされたアーチ形の壁を見てただただ圧倒されるばかりでした。中へ入ってみると

その構造がわかり古代ローマの人たちはすごいものを造るなどと思いました。

そして、今回の海外研修のメインのチェルタルド市でのホームステイです。僕は初めてのホームステイだったので楽しみもあり、ドキドキしていました。しかし、ホストファミリーの人たちは、荷物を持ってくれたりとても優しく、親しみやすい人で初日からサッカーやゲームなどをして、楽しく終えられました。その後は、チェルタルド市の見学、ボウリングにも行きました。

また、僕が一番楽しみにしていたご飯ですが、お父さんの作る物も、お母さんが作る物も両方とてもおいしくて、たまりませんでした。一度だけレストランに行った時に自分で持っていったソースとしょう油を食べさせると「おいしい」と喜んでくれました。

フィレンツェでの合同見学では、ホームステイ先の子供たちと楽しく見学ができ、とても良かったです。教科書で見たことのある絵があり、とてもおどろきました。

そして、長いホームステイも気付けば最終日でした。最後は、プールで遊んで、お別れ夕食会です。正直言うと、「もう終わりか、もっといたいな」と思いました。しかし、今回のホームステイでは、目的としていた食文化の違いや生活習慣の違いがわかりました。それとイタリア人の人柄もわかりとても良い経験になったと思います。



▲コロッセオ内部を見学（ローマ）

そして、ホームステイも終わり最後の観光地ミラノでは、僕が最も印象に残っているものがありました。それは、レオナルド・ダ・ヴィンチの描いた「最後の晩餐」があるサンタ・マリア・デッレ・グラツェ教会です。

ここで僕は絵が描かれている食堂に入ってあの絵を観た時には、縦四メートル横九メートルもの大きさにおどろきました。それに加えて、説明を聞きながら鑑賞すると、今まで気付いていなかったことがたくさんあり、とても良い経験になりました。

僕は、今回のイタリア訪問で目的としていたことも果たせて、とても良い経験になりました。



▲お別れ夕食会でホストファミリーの双子と

この経験をみんなに伝えるなど、自分の将来の財産として活用していこうと思っています。



### 大切な友達

1中 2年1組  
鶴田 奈々

チェルタルドはイタリア共和国トスカナ州フィレンツェ県に属しています。人口は約一万六千人と甘楽町より二千人ほど多く、面積も七十五、二平方キロメートルで、こちらもチェルタルド市の方が約二十平方キロメートル大きい、イタリアの小都市です。

これは事前研修会の資料を読み、学んだことですが、チェルタルド市についての情報は、インターネットや本などで簡単に調べられます。ただ、現地の人々については、くわしく知ることができませんでした。

私は人とコミュニケーションを取るのには得意ではないのですが好きです。でも知らな

い人と話すのはだれもが少しためらうと思いますし、私も同じです。しかも普通に言葉の通じない異国で交流となると、私は不安な気持ちとがんばろうという気持ちできんちょうしていました。でも、それは、実際チェルタルド市を訪れる前までの話です。

チェルタルド市へ入り、歓迎会でホームステイ先の人と顔合わせになりました。

私のホームステイ先の人達は、ルチャーノ、サブリーナ、リーザ、サラの四人家族でした。

一日目は軽く自己紹介をして、夕食を食べながらジェラートを食べにいきました。食べながら、チェルタルド・アルトという旧城郭区域へ行きました。そこは街より少し高い所にあります。

頂上まで行き、サラやリーザに「後ろを見て！」と言われて、ふりむくときれいとしか言いようのない夜景がそこにはありました。どこかでだれかが踊っているような音楽、話し声や笑い声、少し寒いけれど温まるようなその空間に、居心地がいいなと思いました。



▲受入家庭宅で絵を描いて遊びました

その次の日から私は、積極的に話しかけるようになりました。リーザとサラの友達のキアラとも仲よくなり、一緒になって遊んだりしました。それから他のホームステイ先の人達とも積極的に関わるようになりました。

特にピエートロという男の子と一緒に遊ぶことが多く、チェルタルドでの昼食、夕食は毎日一緒に食べていたってくらいでした。たわいもない会話もしつつ二人でならんですわったり、走ったり、すわったりと私はそんな時間も楽しくて仕方がなくて、帰りたくないなと心から思いました。ホームシックになって、まったくならなかったし、もう



住みたいなっていう感じで。

それでもやっぱり別れの時はやってきました。

プールへ行ってから、演劇を見ました。また違うホームステイ先のサラという子といたのですが、二人で演劇のまねをしていたら、本物の劇団員の人達も入ってきてくださって、とても光栄で、うれしかったです。

その後、夕食会がありました。どこにすわろうかなとみんなであらう思っていたら、小さいサラが、「なな！」と隣にすわるようにとささってくれて、とってもうれしかったです。

そして、お礼として花は咲くを歌い、ソーラン節を踊りました。そしたらホームステイ先のお母さん・サブリナが泣いてよろこんでくれて、もらい泣きしそうになりました。こんなにすてきな優しい人達と別れたくない、そう私は思っていました。

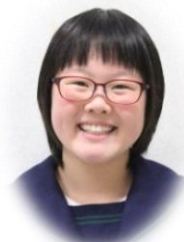
最初の方で私は不安という言葉を書いたのですが、まったくそういうことはなく、楽しく過ごせました。今まですばらしい絵画や景色を見学してきたけれど、私は彼らの顔を一番に思い出します。いつかまた、私はチェルタルドに行こうと思います。大切な友人達に会いに。



▲乗馬に挑戦

これから先、チェルタルドへ行く人達へ。たぶん、いや絶対一生忘れられない時間になるでしょう。恥ずかしがらずに一步ふみだしてみてください。一言言葉をかけてみてください。彼らは私達が思っている以上の愛で受けとめてくれます。きっと何か、今までに考えたことのない何かが見つかるでしょう。

最後に、今までこの研修を支えてくださったみなさん、本当にありがとうございました。



## イタリア研修を 終えて

1中 2年1組  
廣田若夏

初めてのイタリアは、見るもの全てが新鮮で、十四歳の私の心に深く残るものになりました。

イタリアまで、乗りつぎの待ち時間を合わせると約十六時間もかかりました。こんな長いフライトは初めてでした。機内ではテレビを見たり、友達と話をしたりしてわりと楽しくすごしました。でもずっと座っていたので、おしりが痛くなりました。

ホテルに着いた時はホッとしました。すぐ夕食になりましたが、機内でも食事が出ていたので、私はお腹がいっぱいで、イタリアでの初めての食事だったのに、一口も食べられず、残念でした。

ホテルは三ツ星ホテルだったのですが、想像していたのと少し違っていました。ロビーは狭くて、長い廊下のつきあたりには、鏡があり、何だかこわかったので、私たち女子何人かで、トランプをして負けた人が階を一周するという、きもだめし的な遊びをしていました。私は早速負けてしまったので、一人で周りましたが、誰にも会わず、静かな廊下はドキドキでした。



▲サン・ピエトロ大聖堂内を見学

翌日は、ローマ市内の観光でした。どれも日本とは違う形の素晴らしい建造物ばかりでした。その中でもヴァチカン美術館は行く

前から楽しみにしていました。実際に見たら、感動的でした。建物の中は壁や天井にまで絵が描かれていて、時には立体的に浮き出ているようにみえたりするものもありました。天使や神様などが多く、きれいで神秘的でした。テレビの泉は工事をされていてちょっと残念でした。

私がイタリア研修で最も意味があったと思うのは、ホストファミリーとの出会いです。最初はホストファミリーと仲良くなれるかとても不安でした。でもそんな心配はいりませんでした。なぜならホストファミリーの方たちは、私たちを暖かく迎えてくれたからです。いつもあちらから声をかけてくれたので仲良くなることができました。



▲お別れ夕食会でホストファミリーの姉妹と

お父さんのルチャーノさんは、見かけは近よりがたい感じの人でしたが、話してみると結構話しやすかったです。滞在中はほとんど一緒にいてくれて、色々な所へ連れて行ってくれたし、お土産も色々いただきました。

お母さんのサブリーナさんは、お仕事が忙しくてあまり一緒にいられなかったけど、作ってくれたパスタやサラダ、どれもおいしかったです。

十三歳のサラは、バレエを習っていて、読書が大好きな女の子でした。十一歳のリーザはなんと乗馬を習っていました。私達も牧場に連れて行ってもらった時、リーザの馬に乗せてもらいました。馬を引いてくれる人はいなくて、自分で手綱を引いて牧場内を周りまわりました。ドキドキしたけど、とても気持ちよかったです。

海にも連れて行ってもらいました。海では、ホストファミリーのサラやリーザと、そのい

とこと、松井先輩と佐野くんたちと、そのホストファミリーと行きました。行ったらダンスを踊っていました。最初の曲は私たちは全然知らなかったけど、みんなノリノリで踊っていました。でも一つだけ私たちが知っている「チョコレートビスコ」の踊りをしていました。

その後、みんなで海で遊びました。遊んだ後、なぜか「オープンザチャック」つまり「ラッシュガードを脱いで」と言われたので「ノー」を連発しました。でも結局、雰囲気が悪くなったら嫌なので、渋々脱ぎました。私たちはビキニだったので、とても恥ずかしかったけれど、イタリア人は、ほとんどみんなビキニでした。ラッシュガードを着ている人は一人もいませんでした。着ている方が目立つ感じでした。

別の日は、世界一のジェラートを食べるに連れて行ってもらいました。すごい行列でした。皆が並ぶのも分かります。最高のジェラートでした。

最後の日は、四人でマニキュアをぬったり、日本から持っていった折り紙やおはじきをしたり、お互いの名前を書き合ったりして過ごしました。とても仲よくなったので、別れる時は寂しくなりました。

チェルタルド市を出発してからフィレンツェなどを見学しました。今度のホテルは四ツ星ですごくステキなホテルでよかったです。

日本に帰って家族に手紙を出しました。返事が待ち遠しいです。



### チェルタルド研修団 に参加して

1中 2年2組  
石川 由莉奈

私は甘楽町の代表として、チェルタルド市を訪問しました。こういう機会は二度とない

事だと思い、自分にとってとても良い経験になったと思っています。今回研修に参加できたことを誇りに思い、そして研修団の一員としての自覚を持ち、参加させて頂きました。

イタリアの景色はカラフルな街並みで、とても歴史ある建物が沢山あり、見学場所への移動なども退屈なくて楽しかったです。

サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会のチケットは、手に入れるのがなかなか難しく、ガイドさんも苦労したと言っていました。その教会では、「最後の晚餐」などの有名な作品が見られて、自分の眼に焼きつけてきたいと思いました。カメラ撮影が禁止だったので形として残すことはできなかったけれど、本物の作品を見ることができてとても感動的でした。



▲真実の口（ローマ）

イタリアに行く前は、食事や言語、生活が心配だったのですが、実際に行くと思っていたより全然大丈夫でした。食事は口に合わなかったものもありましたが、イタリア独特の味で美味しいものも沢山ありました。料理にはオリーブオイルを毎回使用していて、それもイタリアの一つの文化だと感じました。

言語はホームステイ先のお母さんが、英語で話してくれたこともあり、想像以上に不便ではありませんでした。たまに夕食の時、お互いにイタリア語と日本語を教え合ったりしました。生活はほとんど日本とは変わりなく、時間に少しルーズな感じでした。

そんな中で一番印象に残ったことは、ホームステイ先の家族との食事でした。

ホームステイ先の家族同士はとても仲が良く、夜バーベキューをした時もありました。その時に日本食のおにぎりやお味噌汁を

振る舞いました。イタリアの食事は主食がパスタだったので、日本食のご飯が恋しかった時もありました。

ホームステイ先での家族とお別れ会では、日本の歌と踊りを披露し、終わった後は大きな拍手をもらえたのでとても嬉しかったです。帰りの車の中でお父さんがお別れ会の時に歌った「花は咲く」の口笛を楽しそうに吹いていました。私は、車の後ろの席に座って、口笛を聞いていて気に入ってくれたんだなあと思感し嬉しくなりました。

お別れの朝は、プレゼントをしたソーラン節のハッピーをお母さんが着て、家族皆で見送ってくれました。時間はあっという間に過ぎてしまい、ホームステイ先の家族の皆と別れるのは寂しかったです。

チェルタルド市と甘楽町の交流のシンボルである日本とイタリアの国旗が交差点の中心に飾られていて、昔からの交流があるんだなと思いました。とても歓迎されている感じがして嬉しかったです。



▲ホストファミリーのサーラと折り紙

日本に住んでいても全ての人と出会えるわけではありません。外国でしかもチェルタルドのホームステイ先の人と、とても小さな確率で出会えたということを大切にこそ、今回の交流をする意味があると思いました。イタリアの人はフレンドリーで会った時からとても歓迎してくれました。日本とイタリアを通じているチェルタルド市と甘楽町のこの交流が、これからも続いていき、多くの子供達がそれぞれの国を訪問することで、日本とイタリアをお互いに尊重し合い、国と国の交流を少しでも深められたらいいと考えます。



言葉が分からないこともあったけれど、ホームステイ先の家族と話すことはとても楽しかったです。一緒に参加した研修団員とも仲良くなれて、交流ができてとてもよかったです。

今回沢山の方々の支え、協力があり、このような経験ができたことに感謝します。



### 歴史眠る国、 イタリア

1中 2年2組  
山田 桃花

私はイタリアで、多くのことを学び、そして感動しました。

私は海外には何回か行ったことがあり、あまり不安等はないかな、と思っていました。しかし、イタリアの空港に着き、ゲートを出たときに、今までなかった不安や緊張が一気にこみ上げてきました。外に出ると、聞きなれないイタリア語が宙を飛び交い、触れたことのない空気、そして見なれない景観が、すぐに体に焼きつけられました。そこで初めて、イタリアに着いたんだ、とはっきりと感じました。



▲トレビの泉でコインを投げました（ローマ）

イタリアの街並みは、石畳みで、家も石を積んだように造ってあるものが多く見られました。二日目に行ったコロッセオも、ドーム状に石を積み上げて造ったような建物で、入り口等が、所々アーチ状に造られています。

た。これらのような造りは、先人から受け継がれてきたものなのだと、ガイドさんから聞いて、造りかえもせずに前からあったものを残しておく、というイタリアの愛国心に驚きました。言葉では伝えにくいのですが、先人からの知恵をこれほどしっかりとこのこしているのか、と本当に驚いてしまいました。そして感動してしまいました。

食に関しては、やはりパスタが多かったです。夕食は毎日パスタで、さすがイタリア、と思いました。スーパーに行ったら、パスタ用のちんれつだなが2、3レーンほどあって、びっくりしました。オリーブオイルやワインの種類も豊富でした。時折、米が食べたいということもありましたが、このパスタ生活も好きなので、毎日の夕食が楽しみでした。どのパスタも美味しかったのですが、やはり、ホストファミリーの方が作ってくださったものが一番美味しかったです。

ホストファミリーの方は、すごく優しく、元気な方で、一緒にすごして、楽しかったです。私と一番関わりがあったのは、ステイ先の、9才の女の子、サーラという子です。サーラはすごく活発な子で、外でよく遊びました。中でも、ブランコでよく遊んだのを覚えています。室内では、折り紙を教えて、一緒に遊びました。サーラが一番気に入った折り方は、紙飛行機でした。初め、作ってあげて、飛ばしてみせたとき、もう大はしゃぎして、一時間ほど飛ばし合いをして、まだやるのか、と思うほど飛ばし続けました。右腕の腕力がついたような気がします（笑）



▲お別れ夕食会でホストファミリーと

ホームステイの家族には、サン・ジミニャーノやヴィンチ村、シエナ等、いろいろな所



へつれていっていただきました。短い間でしたが、もう何か月も私達が住んでいたように、フレンドリーに接してくださったので、別れるのがすごくつらかったです。今は、ホストファミリーの方とメールをしているのですが、いつかまた会いに行ってみようと思います。

イタリアには、美術品も多くありました。私の一番行きかかった、トレビの泉は、工事中であまり良く見えなかったのですが、彫刻はテレビで見るより、はるかに迫力がありました。レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」は、本物は美しく鑑賞時間の十五分がはやく感じました。

イタリアは、たくさんの歴史が眠っています。そして、温和な所です。良い友達もできました。また会える日を願って。

Grazie, Italia!



### イタリアに行って…

1中 3年1組  
松井 亮

僕は、今回の体験を通して、日本とイタリアのさまざまな違いを身をもって感じることができました。

まずは、言語です。当然ながら、言語が違うので、会話が上手にできませんでした。しかし顔の表情やジェスチャーなどを工夫して行うことで、わからない言葉でも伝わる場合が多々ありました。また、辞書や翻訳機を使うなどをして、会話にも参加しました。

次は、文化です。文化では特に食事に違いがありました。朝食は、かなり少なめで、甘いものがとても多かったです。それと対照的に、昼食や夕食は、一人前の料理の量が多く、コースメニューででてくるので、とてもボリュームミーでした。また、食事をしている時間もながく、毎日がパーティーのようでした。料理の味は、日本と比べて少ししょっぱめに

できているんだなと思いました。でも、とてもおいしかったです。特に、本場のピザやパスタなどは、種類も豊富で、とても食べやすかったです。そして、そのピザも日本のように一つのピザを全員でシェアして食べるのではなく、イタリアは、一人前が一ホールだったのでビックリしました。

また、食事だけでなく、イタリア人は、時間にとってもルーズだったり、いつも何かをしゃべっていたりと人間性もまったく違いました。人の性格は、日本と真逆に近いのかなと思いました。



▲お別れ夕食会でホストファミリーと

次は、イタリアにある建物や歴史、風景などです。建物は、昔から使われていたものが現代とかかわらず使われていて、一つ一つの建物からその建物のすばらしさを感じることができました。また、自分のホームステイ先の家は、丘の上にあったので、二階やベランダから見る景色は、ぶどう畑やオリーブ畑などが広がっていて最高でした。

そして、イタリアは、世界でもトップの位置にいるほどの世界遺産の数で有名です。古代ローマの時代からある建物やルネッサンスで残されたさまざまな作品があります。

そんな有名な観光地がある中で特に、レオナルド・ダ・ヴィンチが描いた「最後の晩餐」がある、サンタ・マリア・デッレ・グラッツェ教会は本当にすごかったです。

普段の生活では、とてもルーズなイタリア人ですが、ここでは、きちりとした時間制となっていて、十五分たつと強制的に追い出されてしまいます。なので、すばやい行動をして、さらにガイドさんの話を集中して聞きました。その部屋に入り、壁画を見た瞬間は、

心の中に「ドーン」と何かが伝わるような感じがしました。今までの美術作品の中では、あじわったことがない感情でした。

このように、イタリアと日本では、さまざまな違いがあり、自分にとって大変貴重な体験でした。

また、自分は、イタリアのホームステイをしていた時に、誕生日を迎えました。これは僕もホームステイに夢中だったので、誕生日のことを忘れていました。しかし、チェルタルドの市長さんたちにあいさつをする際に、ある評議員の方に誕生日のことをつげられて、祝福をしてもらいました。その時は本当にうれしかったです。

またその日の夜は、ホームステイ先の母がケーキをつくってくれて、さらにそれをホームステイ先の子たちがほぼ全員集まっている会場でパーティーのように祝福してくれました。バースデイソングを歌ってくださり、シャンパンのコルクを抜いたり本当にすばらしい誕生日でした。これは、僕の一生の思い出となり、宝物になると思います。



▲お別れ夕食会終了後、受入家庭宅へ帰る車内

そして、この体験ですばらしい友達という絆が生まれ、今でもあの時いっしょに遊んだり、話したりした人たちは忘れていません。

今回の体験を通して学んだこと、感じたことなどは、これからの自分の生活や将来にかならず活かせると思います。

たくさんの人にこのイタリアのすばらしさを伝え、甘楽町とチェルタルドの交流がこの先何十年何百年と続けられるようにしたいです。そして、将来は、自分でお金をためて、もう一度イタリアに行きたいと思います。本当に本当に貴重な体験ができました。あり

がとうございました。



## 国際交流を終えて

1中 3年2組  
鈴木志音

第15次チェルタルド市訪問中学生国際交流研修団の一員としてイタリアに行ってきて、多くの事を間近で感じることができました。

特に歴史的建造物はたくさんあって、とても昔の物を大切に保管していて、これから次の世代の人に受け継がれていくと思うと、そんなすごい物が見られて貴重な体験をしたと思います。

ローマの観光で僕の中に一番印象に残っている物は、システィーナ礼拝堂です。なぜかという、あの大きな天井がすべて絵で埋まっているのにとっても感動しました。あと中に入っている観光客の多さに驚きました。

ローマで楽しかったのはホテルです。ローマのホテルは迷路のように複雑な造り方をしているので迷いました。だから自分の部屋だと思ったら、人の部屋だったという事がありました。でも、違う人の部屋にみんなであつまって話をするのがとても楽しかったです。時間を忘れてしまいそうになりました。

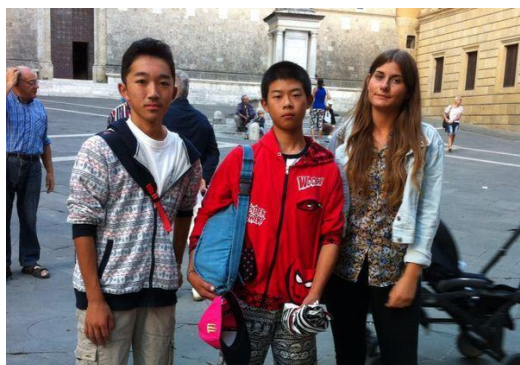


▲コロッセオ見学（ローマ）

ローマを出た後は、いよいよ、チェルタルドでのホームステイでした。

僕のホームステイ先の家族は、ダンテさん一家という陽気な医師の家でした。その家で

は、毎日のようにお祭りのような騒ぎで楽しかったです。ダンテさんは、自分の持っている病院に連れていってくれたり、シエナやチェルタルドアルトなどの観光地にも連れていってくれました。



▲ホストファミリーとシエナ見学

お母さんのブルネッラさんは料理がとても上手で、作ってくれる料理全ておいしかったです。でもその中でも格別だったのがラザニアです。ローマで食べたラザニアとは味が全く違い、ブルネッラさんの作ったラザニアの方が全然おいしかったです。

あとピザ屋さんで食べたマルゲリータも今まで食べたピザの中で特においしかったです。

ホストファミリーは僕たちにたくさんお土産などを買ってくれました。申し訳ないくらいたくさん食べ物や服や家族にあげる物などを買ってくれました。

レベッカとフィアンメッタというお姉ちゃんとおエヴァというお友達と一緒に夜十一時頃にジェラート屋さん連れていってもらいました。とても仲良くできたので良かったです。

ホームステイをしていた一週間はあっという間に過ぎてしまいました。でもとても充実した一週間だったと思います。お別れの時はとてもさみしかったです。

その後ミラノまで行きました。ミラノでは、「最後の晚餐」のあるサンタ・マリア・デルレ・グラッツェ教会に行きました。最後の晚餐は授業で勉強しましたが、実物を観るととても感動して言葉が出ませんでした。なかなか観ることのできない物がみられてよかったです。

ミラノのホテルのベッドはとても寝ごちがよくてよく寝られました。ここでもみんな盛り上がり夜遅くまで集まっています。とても楽しかったです。

とうとう帰る日が来ました。帰る時は、もう帰るのかと思うと早い十一日間でした。日本に帰ってきた時はイタリアに行っていたのが夢のようでした。それにプラスして今まで一緒にいたみんなと別れるさみしさもできました。

今回このような海外研修という機会に行けた事を一生忘れないと思いました。僕は中学校で今まで部活の野球しかしてこなかったので、部活以外の事ができてとても僕の中学校生活の宝の一つになりました。今度イタリアに行くときは、本当の旅行としていきたいと思いました。



## イタリア研修

1中 3年2組  
松浦 匠

僕は平成二十六年八月十五日～二十五日までの十一日間、イタリアのローマ、ミラノ、そして姉妹都市であるチェルタルドへ訪問し、数多くの文化や芸術を体全体で感じ取り、将来の社会活動において必ず必要とされる「コミュニケーション能力」を一般家庭へのホームステイ体験で学んできました。

僕はこれらの町でたくさんの風景、世界遺産や芸術、食文化を体験しました。

まずはローマです。ローマではまず最初、建物がほぼ全て古代ローマのれんが造りだったことに驚きました。古代ローマの時代、今と変わらぬ風景を古代ローマ人が見ていたかと思うとその歴史の面影が感じられました。

日本とは違い、松の木の葉が上を向いており、「かさ松」と呼ばれる松の木が町中にはえている所を見て、「ここはイタリアなんだ



なあ。」と改めて実感させられました。

ミラノでは、ローマとは全く違い高層ビルが立ち並んでおり、同じ国とは思えないほど近代的な感じがしました。同じ国同士で「古代的」な部分と「近代的」な部分があるのは、「東京」と「大阪」のようなもので、日本と似ていると感じる所もありました。

一方チェルタルドでは、高層ビルは無いものの、ローマのように古代のものも少しは残っていました。しかし、チェルタルドを代表する観光名所、チェルタルドアルトをはじめ、朝市やオリーブやトマト畑が広がる丘等、のどかで静かな良い所だらけの町でした。

中でも一番の魅力は、チェルタルドの人はとても優しいことです。

自分が訪れたホストファミリーの家は、父が医師ということもあり、かなり大きな家でした。父、母、娘二人の四大家族で、最初は女二人で心配な所もあったけど、話していくうちにだんだん仲が良くなっていきました。

お母さんの方は、とても優しく、料理がとても上手でした。自分のホストファミリーは本当に優しく、疲れていそうと思えば英語で話しかけてくれたり、自分たちの部屋のそうじを知らない間にやってくれたり、自分たちは何を手伝えばいいのかと、とまどってしまうほど面倒を良く見てくれました。



▲ホストファミリーと買い物  
透き通った水色をしていて、今でもその風景は忘れられません。

二つ目は、食べ物がとてもおいしいことで

す。ホームステイ宅で食べた、自家製オリーブを使ったサラダはどの野菜も新鮮で油っこい食事に良く合いました。

特に自分が一番おいしいと感じたのは、ピザです。厚いふわっとした生地にスープ状のチーズ等がかかっている、これぞイタリアという感じがしました。パスタの形、種類も豊富でミートソースやトマトソースにからめて食べた味は強く思い出に残っています。

三つ目は、芸術がすばらしかったことです。自分は美術に全く興味がなかったけど、様々な教会や美術館を訪れていくうちにだんだんと、彫刻や絵画のすばらしさがわかるようになってきました。

その中でも特に感動したのは、「最後の晩餐」です。レオナルド・ダ・ヴィンチが独自の画法で描いたその絵はとても大きく、観るものを圧倒する迫力がありました。



▲チェ市協会のエボさんと

僕はこれらのローマ、ミラノ、そしてチェルタルド研修を通じて数えきれないほどの、一生に一度の貴重な体験をしました。大変なことの方が多かったけど、イタリアの人々との触れ合いと異文化に触れることはとても楽しかったです。

このような体験ができたことに、この活動にたずさわった全ての人々に感謝したいです。そしてこの甘楽町とチェルタルド市の絆がより深まるように全力で協力したいです。





## 国際交流で 学んだこと

2中 1年A組  
新井七海

この夏、私は一生忘れることのできない、体験をすることができました。

8月15日～25日に国際交流研修団員として、イタリア・チェルタルドを訪問しました。「日本とイタリアの文化の違いを学びたい。」という気持ちがあり、応募しました。

ローマやミラノでは、世界的に有名な名所を見学しました。コロッセオ、トレビの泉、サン・ピエトロ大聖堂、どれもすばらしい建造物に感動しました。

なかでも印象的なのは、ローマのサンタ・マリア・イン・コスメディン教会にある、「真実の口」です。映画「ローマの休日」で見たものを実際に見ることができました。



▲サン・ピエトロ大聖堂前広場（ローマ）

ミラノでは、サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会を厳重な警備の中での見学で少し緊張しましたが、レオナルド・ダ・ヴィンチの代表作、「最後の晚餐」を観ることができました。景色、建物すべてが美しく、壮大なスケールに心打たれ、感動の連続でした。

姉妹都市、チェルタルドでのホームステイでは、到着した日、大勢の方々に迎えていただき、ホームステイが始まりました。

私がお世話になったのはエマヌエーレ・ナッチさんという5人家族でした。初対面の時には「Ciao!!」と陽気に声を掛けていただき、それまでの緊張が吹き飛びました。

笑顔あふれる、仲良しのホストファミリーのナッチさん家族は、私達を本当の家族のように受け入れてくれました。3人の娘さんは年齢も近く、すぐに打ち解けました。私のジェスチャーやイタリア語の単語を一生懸命聞いてくれたり、逆に日本語を覚えようとしていて、私も見習いたいと思いました。

ホームステイ中は、海にキャンプに行ったり、ショッピングに行ったりしました。

海では、砂浜で遊んだり、ビーチバレーをしました。キャンプ先の同世代の友達とも遊びました。お互いに言葉を教え合ったりして、とても楽しかったです。

ショッピングでは、3人の娘さんと一緒に洋服を見に行ったり、スーパーでおすすめの pasta を買ったりしました。セルフレジのやり方や、お金の出し方などを教えてもらいながら、楽しい時間を過ごしました。

夜はドライブをしながら、ジェラートを食べに行きました。チェルタルドの夜は静かで安全な所だと言っていました。

マンマはイタリアの料理をたくさん作ってくれました。どれもおいしくて、日本食が恋しくなることはありませんでした。



▲対面式でホストファミリーと

私達も、日本のカレーとみそ汁を作りました。家族の人達もみんな「Buono!!」（おいしい）と言ってくれました。うれしかったです。

受け入れ家庭の人達とフィレンツェ合同見学に行ったり、プールに行ったり、とても充実した6日間でした。

言葉の違いはあったけれど、好きなアーティストが同じだったり、ものまね遊びをして、たくさん笑えたこと、国や文化が違っていても越えられるものがあると感じました。

出発の日は、マンマがバスの中で食べるように、お菓子を用意してくれました。一番上のお姉ちゃんが涙を流しながら、「また会おうね。」と言ってくれました。私も「また必ず会いたい。」そう思いました。その時はもっとイタリア語が話せて、自分でコミュニケーションがとれるようになりたいです。

このイタリア訪問で出会った、全ての人に感謝しています。そして、このような機会を与えて下さった町の関係者の方々、10日間、私達をサポートして下さいました。本当にありがとうございました。

この経験を大切に、将来の夢へ一歩踏み出せたらと思います。



### チェルタルド訪問に参加して

2中 1年A組  
郡山 ももか

私は、イタリアのチェルタルド市に学校の代表として、観光やホームステイを学習しに行ってきました。

イタリアはとてもキレイな所で、イタリアに住みたい、と思うほどでした。

最初の二日間は色々な所を観光しました。ローマはとても人が多いので、びっくりしてしまいました。ローマのような都会で観光地は、スリにあいやすいから、バッグは前に持つなど、事前に聞かされていたので、スリにあわないかどうか、とても心配になりました。でも、私達がローマ市内で観光した、「トレビの泉」や教会にあった、「真実の口」を見たときは、とても感激しました。

二日間のローマ観光が終わると次にホストファミリーの対面式が行われました。私を受け入れてくださったホストファミリーの人達はみなさんとても優しくしてくれました。ホストファミリーの家はとても広くて、驚きました。動物をたくさん飼っていて、そ

の中でも二匹のネコはとてもカワイくて、見とれてしまいました。



▲フィレンツェ合同見学

次の日は海に連れていってくれました。海はとてもキレイな青色をしていて、すいこまれそうでした。夜はとても豪華な肉料理ができてきました。とても大きくて、お腹がいっぱいになりました。その夜は、キャンピングカーで寝ました。

次の日は、海に入ったり、みんなでビーチバレーをしました。とても楽しくてたまりませんでした。帰ると、すぐぐっすり寝てしまいました。

次の日起きて食べた朝食にはたくさんのフルーツがありました。おいしかったのが、黄色い色をしたプラムです。とても甘くてすごくおいしかったです。飲み物では、牛乳を飲んでみると、日本の牛乳よりも味がうすくて、驚きました。

そして、その日は、ショッピングに連れていってくれました。洋服屋に行ったり、電化製品を売っているお店に行きました。日本と同じようにセールをしているなど、色々な発見があって、楽しかったです。

他の日には、ホストファミリーの友達のおじいさん、おばあさんの家でピザとパスタ作りを体験しました。その日の夜は、イタリアの遊びで盛り上がりました。日本の遊びで、たとえば「しっぽとり」みたいな感じです。楽しかったです。

また他の日には、全ホストファミリーで、プールで大はしゃぎしました。飛び込んだり、ボールで遊んで、とっても楽しくて、楽しくて最高の気分でした。

お別れの前の日の夕食は、みんなで集まっ



て、「お別れ夕食会」を開いてくれました。そこでは、私達が日本で練習していた、踊りの「ソーラン節」と歌の「花は咲く」を披露しました。ソーラン節を踊るときに着ていたハッピーは、各ホストファミリーの子にプレゼントしました。みなさん、とても喜んでくれたので、良かったです。



▲受入家庭宅でホストファミリー姉妹と

家に戻ると、急いで寝る準備をしました。そのあと、一緒に泊まっていた友達とホストファミリーのみなさんに、辞典で調べながら簡単なイタリア語で手紙を書いて、プレゼントしました。みなさん喜んでくれました。

次の日、朝食を食べてすぐにみんなとお別れするためにバスが停まっている場所に向かいました。私は、別れるのが嫌でした。でも住所も教え合えたり、スカイプもできるので、別れるのはつらいけど私が日本に帰国してからもやり取りができるのだと言いかせました。

最後にみなさんにお別れを言うと、バスに乗って、ミラノへ向かいました。ミラノでお昼を食べた後、少し観光しました。中でも、レオナルド・ダ・ヴィンチが描いた、「最後の晚餐」が一番印象に残っています。観光のあとは、ホテルに行きました。ホテルはすごくキレイで、広かったです。

夕食後は、ホテルでみんなとイタリアでの体験を話し合い、思い出を共有しました。

次の日は、ミラノにある空港に向かい、荷物検査などを済ませると、飛行機に乗りました。乗り継ぎをし、成田空港からのバスでは、熟睡してしまいました。

役場に到着して、家族の迎えを見た時は、「帰ってきたんだな」と思いました。

この経験を生活の中で活かしていきたいと思います。本当に研修に参加できて良かったです。ありがとうございました。



## イタリアに行って

2中 1年A組  
富岡沙彩

私が、第15次チェルタルド市訪問中学生国際交流研修団員の募集に応募したきっかけは、六年前に、私の姉もこの募集に応募し、イタリアに行って、とてもいい思い出を作ることができたと言っていたのを聞いて、私もイタリアに行って、たくさんの思い出を作りたいと思ったのと、四年前にチェルタルド市から来た二人の高校生のホームステイを受け入れし、とても楽しい時間を過ごすことができたので、応募しました。



▲対面式後にホストファミリーと

八月十五日の朝早くにたくさんの人に見送られながら甘楽町を出発しました。

八月十六日の夜にイタリアに着きました。その日は皆で近くのレストランに行き、夕食をすませてホテルに帰りすぐに寝ました。

次の日は、皆でローマ市内を観光しました。ローマでは、スペイン広場やトレビの泉、コロッセオ、フォロロマーノ、サン・ピエトロ寺院、システリーナ礼拝堂に行きました。残念ながらトレビの泉は、修復工事中だったため、実物を見ることができませんでした。

次の日の午前中もローマ市内を観光しま

した。その日は、サンタ・マリア・イン・コスメディン教会とカタコンベに行きました。その後、バスでチェルタルド市へ向かいました。

チェルタルド市に着くと、たくさんの人達が出迎えてくれていました。ある女性はスマートフォンを手に取り、翻訳機を使い「歓迎」という文字を打ち、私達に見せてくれたのが、とても嬉しかったです。

対面式後、ホストファミリー宅へ向かいました。

私がホームステイしたお家のお母さんは日本人でした。ホームステイ先の家族はもちろん、ホームステイ先ではない他の関係者の方々も、とても優しくしてくれました。

ホームステイ三日目に海へ連れて行ってもらいました。海はチェルタルドから車で二時間くらいのところにありました。海には何年も行っていなかったのでも、とても楽しかったです。海はとても広く、水がすごく綺麗でした。

ホームステイ四日目には、ショッピングに連れていってもらいました。スーパーマーケットにはたくさんものが並んでいました。やはり、チーズやワイン、パスタなどの種類は豊富でした。



▲ミラノ大聖堂前

次の日は、研修団員全員とそれぞれのホームステイ先の家族と一緒に、フィレンツェ合同見学に行きました。フィレンツェでは、美術館などに行きました。美術館には「ヴィーナスの誕生」をはじめとした数々の有名な絵が飾られていました。

次の日は、日本の中学生全員とチェルタルドの子供達でプールに行きました。皆で行

くことができ本当に楽しかったです。プールの後は、チェルタルドでは最後の夜ということで、関係者の皆さんが、お別れ夕食会を開いてくれました。夕食会では豪華な夕食が出てきました。とても楽しくて、すごく早く時間が過ぎてしまったような気がしました。私達はお礼に、「ソーラン節」と「花は咲く」を披露しました。出し物が終わったとたん皆は立って拍手をしてくれました。とても嬉しかったです。すごく楽しい時間を過ごすことができました。

次の日の朝は、チェルタルドを出発するため、皆お見送りに来てくれました。朝早くの出発でしたが、たくさんの人達がお見送りに来てくれました。別れるときはすごく寂しかったけど、皆バスが見えなくなるまで手を振ってくれていて、とても嬉しかったです。

チェルタルド市を出発してミラノへ向かいました。ミラノでは、スカラ座やガッレリア、ドゥオーモ、サンタ・マリア・デッレ・グラッツィエ教会に行きました。サンタ・マリア・デッレ・グラッツィエ教会にある最後の晩餐を見ることができました。さらに、ガイドさんがわかりやすく説明してくれたので、とてもよかったです。

イタリアに行って、とても貴重な体験をすることができて、さらにたくさんの友達とたくさんの思い出を作ることができて本当に良かったです。

イタリアで学んだ事を、今後の生活に活かしていきたいと思います。



### チェルタルド市を 訪問して

2中 2年A組  
佐野 暁 寿

僕はこのチェルタルド市訪問で、とても貴重な体験がたくさんできたと思います。

外国に、しかもホームステイに行くことは



初めてだったので、言葉が通じるのか、しっかりとコミュニケーションがとれるのかが心配でした。ですが同室の人と協力して、ジェスチャーを交えれば、ある程度のことは相手に通じ合うことができました。

また、初めてホームステイをする時は少し緊張しましたが、少し会話をしただけですぐに、打ちとけることができたので、とても安心しました。



▲海へ連れて行ってもらいました

ホームステイ先で驚いたことは、家の前に教会があったことや家が地下造りになっていることです。イタリアは日本と違い湿度が低くかわいているので涼しいのですが、地下はさらに石造りとなっているので、少し寒く感じられるほど涼しかったです。

そして、一番驚いたことは、窓からみた景色です。窓を開けるとそこには、さわやかな風と共に、一面をおおいつくす、オリーブ畑やブドウ畑さらには豊かな自然が広がっていました。

ホームステイ先では、「ありがとう」や「いただきます」そして「ごちそうさまでした」など日常生活で使う、簡単な日本語をいくつか教えたり、「ブオーノ」（おいしい）や「チャオ」（やあ）そして、「チャオ、ボンジョルノ」（おはよう）などのイタリア語を教わったりし、また、僕達が覚えたイタリア語などを会話に使うと、いつもとても喜んでくれ、会話がはずみました。

また、ホームステイの受け入れ家族の人と顔合わせする時に、最初は話しかけられなかった人達とも、いざ少し話をし、共通の話題などで盛り上がるというのまにか友達となっていました。

イタリアで食べた料理はだいたいおいしかったです。驚いたことに、日本で使っているイタリアンドレッシングという物はイタリアにはなく、オーソドックスなものといえば、オリーブオイルをかけたサラダなどでした。

オリーブオイルをかけて食べることは苦手でしたが、ホームステイ先の家庭では、気を使ってくれていて、そのようなところにやさしさが見て取れました。

ホームステイ中はいろいろな場所に連れてってもらいました。特に印象に残っているのが、海に行った時のことです。

イタリアの海では、泳いでいる人が少なく、だいたいの方は日光浴をしていました。海に入ると思ったよりも浅く波も穏やかだったです。日本ならぎりぎり足がつくような海岸から離れているような場所でも普通に立ってられる程でした。ですが油断していると一気に深くなり、とても驚きました。

他には、プールに行ったことが印象に残っています。プールでは、なんと飛び込みができ、また温水プールもありました。日本では飛び込みができるプールはめったにないので、とても楽しかったです。



▲お別れ夕食会でピエートロ、サーラと

イタリアの人達の前で日本らしいパフォーマンスをした時は、とても大喜びしてくれました。特に小さいものから大きなものまでの折鶴を作ったことが良かったようで、僕は教えたりたくさん作ったりして大変でした。

今、あの生活を振り返ると、もっとたくさん遊んだり話をしておけば良かった、などという悔いや、砂浜で遊んだりバスケットボールやサッカーをしたりして楽しかった、とい

う思いがたくさんあふれ出て来ます。

僕はこの、十一日間の生活で、人への感謝そして友達がいかに大切なのか、ということや社会へ出た時あいさつや礼儀などを今まで以上に考えて生活する、ということ学ぶことができました。



### 十一日間で 学んだこと

2中 2年A組  
細谷 遥香

私は、中学生国際交流研修団員として、八月十五日から二十五日までの九泊十一日間イタリアを訪問しました。

多数の希望者の中、私は抽選で十六人の中の一人としてイタリアに行くことができました。

海外に行くのは初めてで不安を少し抱えながら出発しました。十一日間あるうちの二日間は機内で過ごしました。日本とイタリアの時差は、約七時間もあるので行きは機内で昼食を二回とり、すごく長い一日でした。逆に帰りは約十一時間で次の日になってしまうという、すごく短い一日でした。

十一日間のほとんどは、チェルタルドでホストファミリーの方たちと一緒に過ごしました。その他、イタリアの世界遺産や有名な観光地を見学しました。

ローマとミラノの観光では、日本人のガイドさんがつき、その場での解説をしてくれました。日本と比べるとさまざまな違いが見つかりました。基本的にイタリアは涼しく過ごしやすい気候で、夜になると少し肌寒かったです。街のほとんどは石畳の道になっていて、建物の外観や街並みは色や形が統一されていました。絵に描いたような風景で、とてもきれいでした。

イタリアには世界遺産が約五十件もあります。特に私たちが行ったローマやミラノに

は沢山の世界遺産がありました。

観光の一日目は、ヴァチカン市国の美術館やローマのコロッセオ、スペイン広場に行きました。コロッセオは古代ローマの時代からあった建物なので、石で造られていて階段がとても急でした。

二日目は、トレヴィの泉、サンタ・マリア・イン・コスメディン教会などに行きました。ここでは真実の口に手を入れてきました。トレヴィの泉は修復工事中だったので前にある小さな泉に後ろ向きになり、コインを投げました。



▲スペイン階段にて（ローマ）

ミラノでは、十五分間という短い時間で「最後の晚餐」を鑑賞しました。教科書で見るのとは、全然違い、戦争で建物が壊されても絵だけが残っていたことに感動します。鑑賞の後はスカラ座やガッレリアなどを見学し、勉強をしました。「最後の晚餐」の外に、もう一つ絵が残っていたのでびっくりしました。

六日間のホームステイは、あっという間だった気がします。私がお世話になったホストファミリーの母親は日本人でした。最初は通訳をしてもらってばかりだったけど、少しずつイタリア語を教えてもらったり、日本語を父親や娘さんに教えたりしました。

日本人のお母さんだったので私が起きたときや夜寝るときに、イタリア語で「ブオンジョルノ」「ブオナノッテ」と言うと、「おはよう」「おやすみ」と日本語で返ってくるので変な感じがありました。

けれど、小学校は五年間で高校も五年間通うということ、中学校は日本みたいに部活というものが無く、ほとんどが半日で授業が終

わるということ、夏休みは三ヶ月あり九月から新学期に変わるなど日本とは違うところを沢山聞くことができたので良かったです。



▲お別れ夕食会でホストファミリーと

私は、ホストファミリーの人に、沢山の場所に連れてってもらいました。イタリアに行った時期がちょうどバカンスだったので海に連れてってもらったときは人でいっぱいでした。郵便局は日本と似ていました。サン・ジミニャーノという場所では世界チャンピオンになったジェラート屋さんに行ったり一番高い所まで登り、チェルタルド全体を見ることができました。

ホストファミリーと研修団とでフィレンツェの美術館を見学しました。美術や社会の教科書で勉強した「ヴィーナスの誕生」や「春」を生で見ることができました。お互いに言語が違い大変だったけれど、相手の言葉が理解できたときは、すごくうれしかったです。

十一日間で私は、文化や食生活などの違いについて学ぶことができました。イタリアに連れて行ってくれた人に感謝をし、これからの生活に少しでも活かせるようにしたいです。



## イタリアに行って

2中 2年B組  
松田真帆

私は、外国に行くのが初めてで、イタリア語が話せるかなと心配していました。それに、

ホームステイ先の人達と仲良くできるかなと思っていました。みんなで役場などに集まって、イタリアで最後にする、「花は咲く」や「ソーラン節」などをたくさん練習しました。

そして、イタリアに行く日が近づいてきて、とうとうイタリアに行く日が来ました。イタリアの旅行期間は、八月十五日の金曜日から八月二十五日の月曜日の十一日間でした。

出発の日、私達は家族と別れてバスに乗り、成田空港に向かいました。そして成田空港からアムステルダム、アムステルダムからローマへ行きました。

ローマに着いたら、ローマのホテルへ向かいました。ローマのホテルが迷路みたいで自分達の部屋が分からなくなりました。それに、そのホテルは、建物が揺れるから、とても怖かったです。



▲ホストファミリーと対面

ホテルに食事をする所がないので、ホテルの近くのレストランに行きました。イタリアなのでやっぱりパスタが出ました。パスタと言っても、日本のような麺みたいなのではなく、マカロニみたいなパスタでした。それに日本と違って、味がすごく濃かったです。食事を終えて、ホテルに戻った時も、やっぱり迷ってしまいました。

一日目は、ローマを観光しました。ローマは、スペイン広場、トレヴィの泉、コロッセオ、サン・ピエトロ寺院、システィーナ礼拝堂、ヴァチカン美術館などにいきました。

スペイン広場では、映画「ローマの休日」でオードリー・ヘップバーンがジェラートを食べながら階段を降りるシーンが有名です。トレヴィの泉では、後ろ向きにコインを投げる



と幸せなことが起こるそうです。コロッセオは、紀元八十年頃、ティトゥス帝の時代に完成した円形の競技場で、猛獣対剣闘士、剣闘士対剣闘士の戦いが繰り広げられたそうです。こうして一日が終わりました。

二日目もローマを観光しました。二日目のローマは、サンタ・マリア・イン・コスメディン教会を観光しました。その教会はみなさんがご存知の真実の口のある所です。

真実の口は、映画「ローマの休日」でとても有名で、嘘つきの人は手が抜けなくなるという伝説の円盤で、本来は古代のマンホールの蓋だったということです。サンタ・マリア・イン・コスメディン教会は八世紀にキリスト教を信仰し始めたギリシャ人のために建てられた教会だそうです。

二日目の午後はチェルタルド市に向かい、ホームステイの方に、この日から六日間、お世話になりました。

ホームステイの一日目は、ガリレオ博物館に行きました。ガリレオ博物館では、今にはない昔ながらのコンパスや、地球儀の作りなどがあつたのでとても勉強になりました。

ホームステイの二日目は、クリスタル博物館に行きました。そこには、とてもきれいなクリスタルがたくさんありました。とてもきれいなコップなどが作ってあってびっくりしました。こうして一日一日が過ぎていきました。

ホームステイ五日目は、みんなのホストファミリーの人達と私達でプールに行きました。イタリアのプールは、日本のプールと違って、流れるプールがありませんでした。でもとても楽しかったです。



▲チェルタルドを出発するお別れの朝

次の日は、ミラノを観光しました。ミラノでは、スカラ座、ガッレリア、ドゥオーモ、サンタ・マリア・デッレ・グラッツィエ教会などに行きました。

サンタ・マリア・デッレ・グラッツィエ教会では、みなさんご存知の「最後の晚餐」を観ました。最後の晚餐では、刃物を持った人がある男の人に刃物を突きつけている所が見られます。

また、五百年近い歳月をかけて建てられたミラノのシンボル「ドゥオーモ」。最大の特徴は、天に伸びる百三十五本もの尖塔。とても迫力があつました。こうして、ミラノの観光も終わりアムステルダム、成田空港、甘楽町役場へと帰ってきました。

私は、イタリアに行き、たくさんのことを学びました。イタリアの文化や歴史を学ぶことができたので、日本のいい所などをたくさん見つけて、これからの生活にいかせるようにしたいです。



## チェルタルド訪問を経て

2中 3年B組  
山田 真奈美

私達は、二〇一四年八月十五日から八月二十五日まで、イタリアのチェルタルド市を訪問しました。

私は、イタリアに行つてとてもいい経験ができたと思っています。

イタリアでの思い出は、大きく分けて二つあります。

一つ目はホームステイです。ホームステイでは短い間でしたがイタリアの子になつたような感じでした。とても楽しかったです。受け入れ家庭の方も私達を本当の子供のように接してくださりとても有意義な時間を過ごすことができました。日本とイタリアの文化の違いをホームステイで改めて感じる

ことができました。

生活の面で一番困ったのは、トイレとお風呂です。トイレはお風呂と一緒にあるので、だれかがお風呂に入っているとトイレによれないので、その点では少し大変でした。

お風呂は浴槽がなくてシャワーだけだったので最初は戸惑いました。しかし、私も夏はシャワーだけの日もあるので、慣れてきて最後の方は本当に自分の家を思い出せました。

ホームステイ先の方もたくさんの場所へ連れて行ってくれたり、いろんな物も買ってくれました。日本には「遠慮」という言葉があるので、私は、最初は「いいです」と言いましたが、結局買ってもらいました。

イタリア人の方々は、とても気さくで優しくかったです。さらに、ホームステイ先のお父さんとお母さんはとても勉強熱心で、日本語を勉強して日本語で話しかけて下さいました。その時私はとても感動しました。



▲真実の口（ローマ）

二つ目は、観光です。観光で印象に残っている所は、二つあります。

一つ目は、ローマのコロッセオです。コロッセオは古代ローマの遺跡です。コロッセオのような遺跡は、日本では見られません。なので、コロッセオを見た時は、これはなかなか見ることができない物だから、目に焼きつけておこうと思いました。

私は、コロッセオの外観だけでなく、構造もとても印象に残っています。コロッセオの観客席は一部が残っていました。あと、その時代の貴族の方々の席というのも残してありました。その貴族の席には日光が当たらないように設計してあったり、どの席から見て

も闘っている所を楽しめたりと、とてもよく工夫された構造だなと、とても印象に残っています。

二つ目は、サンタ・マリア・イン・コスメディン教会にある真実の口です。私は、真実の口に一度でいいから手を入れてみたいと思っていました。なので、今回このような経験ができてとても嬉しかったです。この真実の口には、「嘘つきは手が無くなる」や「切られる」などの説があり、私は嘘つきではないと自信をもって言えるわけではありません。ですから、手が無くなってしまわないかと多少不安になりました。しかし、実際手は今でもあるので、ひとまず安心しました。

真実の口の先にある、サンタ・マリア・イン・コスメディン教会もすごかったです。日本では、教会に入る機会がなかなか無いのですがイタリアにはたくさんの教会があり、どれもとても神聖なもので、私はとてもすばらしい体験ができたと思います。

さらに、私はイタリアでたくさんの友達を作ることができました。その友達とは、言葉は思うように通じないけれど、伝えようとする気持ちさえあれば、心がつながっていれば仲良くなれると思いました。



▲お別れ夕食会でホストファミリーと

これらの経験を、今後私の生活に役立てられたら、とても良いと思っています。私は、イタリアに行って改めてイタリアは、とてもいい国だなと感じることができました。イタリアの方々にも、日本はいい国だなと思っていただけたら、とても嬉しいです。

今回の経験は、私にとって一番最高の思い出となりました。

# 随行員・通訳報告記





## 新たな友情と絆

随員 (町職員)  
猿谷 朋子

多くの方々から励ましの言葉をいただき、向かったイタリアは、新たな発見と感動の連続であり、由田団長はじめとする研修団の皆さんと共に過ごした11日間の経験は、私の大きな糧となりました。

チェルタルド市訪問の前後に訪れたローマ・ミラノの見学では、偉大な芸術家の作品や建造物を直接自分の目で確かめ、肌で触れる感動を味わい、悠久の歴史が今も威厳を保ち続けるイタリア主要都市の素晴らしさに魅了されました。



▲プレトリオ宮殿前

木、列をなす糸杉などの長閑な田園風景であり、ゆるやかな曲線を描く緑豊かな丘陵地帯は、どこか懐かしく、気持ちが和らぎ、チェルタルドが近づいていることを知らせてくれました。

到着したチェルタルド市では、親しい友達を迎えるような温かい歓迎と目を輝かせて喜び合う再会に、長い間交流を積み重ねてきた両市町の絆と相互交流の成果を実感しました。緊張気味の団員たちを見て、少し心配しましたが、ホームステイへの期待に胸を膨らませ、対面式でしっかりと握手を交わし、元気に手を振って受入家庭へ向かう姿は、頼

もしくも見えました。  
ローマを離れ、バスの車窓から見える景色は、青く澄んだ空に一面に咲き誇るひまわり畑やなだらかな土地に植えられたぶどう畑、整然と並ぶオリーブの

もしくも見えました。

団員たちは、受入家庭で深い愛情を惜しみなく注いでもらい、イタリアの生活習慣や文化を学び、家族の一員として心地よく過ごしていました。言葉の壁を乗り越え、明るく生き生きと心身ともに順調に過ごす様子を胸を撫で下ろし、ホストファミリーの心の温かさと優しさに感謝の気持ちでいっぱいになりました。団員の皆さんもきっと心に強く感じるものがあつたに違いありません。

私たちは滞在中、市関係者や協会役員・会員の方々にお世話になり、市内やワイン農園会社・オリーブオイル製造所等の視察を行い、甘楽町との交流の歩みを確認し、チェルタルドの魅力に触れました。茶室「甘楽庵」をはじめ、これまでの交流の歴史を語るモニュメントや植樹された桜などを視察し、甘楽町の存在を感じることができました。また、広大な土地に広がるぶどう畑やオリーブ畑は壮観であり、伝統を受け継ぎ、情熱と愛情をたっぷり注いで大切に育てる生産者の真剣な表情と想いには、歴史や文化、家族を大切にしているイタリアに繋がるものがありました。そして、関係者のお宅でいただいた食事では、愛情たっぷりの家庭の味と心温まるおもてなしに心がほっとするひとときを過ごしました。ゆっくりと楽しむ会話の中には、必ず笑顔があり、人生を上手に楽しむイタリア人を学ばせてもらいました。街全体が家族であるかのようなチェルタルドの穏やかさに癒され、心の豊かさと深い友情に感謝と感動の念を抱き、心の底から湧き上がった充足感は忘れられません。

今回の交流が今までと変わった点は、チェルタルド市国際文化交流推進協会が中心となり、市やホストファミリーの協力を得ながら受け入れをしていただいたことです。前回の第14次中学生研修団受入を終え、青少年の交流をさらに推進したいと受入家庭が中心となり協会が発足したという経緯を知り、感慨深いものがありました。協会は、受入家庭の調整や滞在日程、お別れ夕食会等の設営準備、配膳まで、役員を中心に市と密に連絡をとりながら進めてくださいました。

また、市・協会・受入家庭の連携・協力に

より、スマートフォンや無料アプリを利用して団員たちのホームステイの様子が伝わる画像が送られ、私たち、そして、日本で見守る保護者の方々は安心することができました。インターネットの利便性は日常生活に浸透し、コミュニケーションに大きな変化をもたらしており、国際交流の推進に欠かせないものとなっています。

フィレンツェ見学やプールの自由時間などで受入家庭以外の子どもたちとも友情を広げた団員たちは、お別れ夕食会で和気藹々とした時間を過ごし、最後に歌「花は咲く」と踊り「ソーラン節」を感謝の気持ちを込めて立派に披露してくれました。心に響く歌と堂々とした踊りにより、会場は温かい拍手と大きな歓声に包まれ、溢れんばかりの笑顔につながりました。法被をホストファミリーへ渡し、手ぬぐいを頭に巻いてあげる団員たちは、心からの感謝の気持ちを自然に表していました。

出発の朝、別れを惜しみながら、姿が見えなくなるまで手を振り続ける団員たちからは、イタリアでの成長と新たな友情の証を確信することができました。研修を通してかけがえのない大きな宝物を得た16名の団員の皆さんには、新たな友情を大切に育み、今回の経験を広く多くの人に伝え、将来の夢や希望に向かって力を発揮していただきたいと思います。



▲「甘楽庵」前で記念撮影

30年を経過した姉妹都市交流は、中学生研修団も15回目を数え、友情の種は着実に育ってきました。「甘楽町の国際交流を誇りに思う。」20年以上ホストファミリーと交流を続けている友人は言います。これまでに多くの研修団員がホストファミリーと強い

絆で結ばれていることでしょう。私も今回交流事業の一端を担うことができ、日に日に成長する中学生を見守り、新たな友情と深まる友好の絆を感じることをできたことを大変幸せに思います。これも今まで交流に携わってくださった関係者の方々の熱意と尽力のおかげであり、改めて感謝するとともに、今後の交流が、新たな可能性を広げてさらに絆を深め、末永く続いていくことを願っています。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださり、支えてくださったすべての皆様に心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。



### 私とチェルタルド

随員(道の駅甘楽職員)

小林俊明

私が道の駅甘楽に勤めていてこんなに驚くことは初めてでした。まさか中学生のチェルタルド随員を指名されるとは夢にも思いませんでした。チェルタルド市とのホームステイの交流は、私が中学生の時から始まり今年で三十一年になります。しかも道の駅で販売しているチェルタルド市からの直輸入ワインの販売は三十年になるので、改めて歴史を感じます。この直輸入ワインの販売員に是非チェルタルドに来て欲しいとの事で私が選ばれたとは聞きましたが、本当に私で随員が務まるかどうか正直不安な気持ちでいっぱいでした。

事前研修で子供達と一緒に、イタリアの文化や言葉などを学び、ホームステイでの感謝の気持ちを込めて披露する歌や踊りの練習を行うにつれ、子供達の笑顔や元気に少しずつ不安な気持ちも解消され、出発時にはワクワク感で胸が高鳴っていました。

まずはローマで一泊して、翌日はローマ市内を観光。随員の使命感で緊張しながらも、見るものすべてが感動と興奮の連続で、心の中は子供達以上にはしゃいでいました。特に、

剣闘士達が命を懸けて戦った四階建ての巨大な円形競技場のコロッセオでは、古代ローマの凄まじい歴史を肌で感じる事ができました。

ローマを後にし、いよいよチェルタルドへ。バス移動の車窓からの、オリーブ畑や糸杉などに心が和み、少しずつ変化する風景を楽しみました。

チェルタルドに到着して温かい歓迎会終了後、子供達は蜘蛛の子を散らすようにそれぞれ受入家庭の車に乗り、六泊七日のホームステイに入りました。

一方、私達団長以下随行員はチェルタルド市滞在期間中、第八次チェルタルド市青年使節団の随行員として来日したエボさんに運転手として終日お世話になりました。エボさんは日本語も堪能で、大変ユーモアに溢れている方でした。エボさんのお陰で、よりチェルタルドを満喫出来たと実感しています。エボさん他イタリアの方は皆さん人をもてなすのに慣れている感じで、すぐに打ち解けて、旧友を迎えるように温かく何処に行っても歓迎してくれました。人見知りの多い日本人の私達とのギャップを良い意味で感じました。

子供達のホームステイ期間中は一ノ瀬先生の通訳の元、ワイン農園会社5軒、オリーブオイル製造所1軒、ラルド製造所1軒（ラルドとは豚の背脂を塩水に約半年漬け込んだもの）の見学とホームステイ先の家庭訪問を8軒、その合間にサン・ジミニャーノ、フィレンツェ等の見学をし、忙しいながらも大変充実した日々が過ごせました。その中でも私の仕事に深く関わりのある、ワイン農園会社とオリーブオイル製造所は強く心に残っています。トスカーナ地方の風土と気候を生かしたぶどう作りは畑を見るだけで素晴らしいものだとわかりました。ワイン用のぶどうはそのままだと余り美味しくないと思っていましたが、畑に実っているぶどうをそのまま食したところ、非常に甘みがあり味わい深い美味しいぶどうでした。その丹精込めて育てられたぶどうを使用し、伝統的な製法で作上げる技術の素晴らしさや、製造者の情熱のこもったワインが、我が子のように大切な思いで作られていることに感動しました。

またオリーブオイルも同じく、こだわり抜いた製法で、近代化された製造所で作られるオリーブオイルは非常に品質も高く、日本人にも大変好評な逸品に仕上がっています。今回の訪問でビデオ撮影をさせていただいたので、いつか陳列してある商品の横で、こだわりの説明をしている映像が流せたらと思います。またこの体験を道の駅で生かして、益々の販売増加を目指し輸入回数を増やせることを目標に、販売員として製造者の情熱をお客様に伝えていきたいと思っています。



▲道の駅で販売するワインの製造会社を訪問

もちろん、チェルタルドでの食事も満喫しました。家庭料理をいただく機会が何度もあり、その家庭料理の美味しさにビックリでした。とにかく、どの家庭も優しさが伝わってくる料理で、この味が家庭の味であり、お母さんの手作りの味なんだと、心もほっこりと優しさで包まれました。そしてエスプレッソやカップチーノも珈琲好きにはたまらない美味しさで、食事に関しても感動や驚きの連続でした。

家庭訪問では、久しぶりに子供達に会ったので、元気になっている姿を見ると自分の子供のように感じて、安心感でいっぱいになりました。どの受入家庭も我が子のように大切に面倒を見てくれていることが伝わり、情の深さを感じました。

また、チェルタルドの最後の夕食会での歌と踊りでは、子供達の感謝の気持ちが見ている人達に伝わり、拍手喝采で大変盛り上がり大成功でした。例え歌詞を間違えたり、踊りを間違えたりしても、気持ちを伝える一生懸命さが大事だという事を子供達も感じ取れたと思います。

チェルタルドにお別れをし、最後の観光地



ミラノへ。ミラノへ行く道中は大雨でとても観光出来る天気ではなかったのですが、ミラノに近づくにつれて雲が途切れてまさかの雨上がりの晴天に切り替わったのには、私達の幸運が雨雲を蹴散らせたように感じました。

ミラノで最後の晚餐の鑑賞や、ドゥオーモの圧倒的な存在感に感動しつつ、私達もミラノでイタリア最後の晚餐。非常に愉快的晚餐会が出来てまた一つ思い出が増えました。

イタリアを離れてようやく日本に帰国した時感じたのは、湿度の高さや空の低さ、それが何故か不快ではなく、じめじめした湿度の高さが何故か心地良く、我が国に帰って来たんだという嬉しさでいっぱいになりました。



▲ワインの原料となるぶどうの品質をチェック

夢のような十一日間でしたが振り返ると、異国のチェルタルドでも、世界中どこでも言葉の壁はあるかもしれないけれど、人と人の気持ちのつながりは世界共通であり、今回の訪問でもう一つの故郷が増えました。またいつかこの気持ちを抱きつつ、チェルタルドという第二の故郷を訪ねてみたいと思いました。

最後にこのような体験を実現させていただいた甘楽町国際交流振興協会の皆様を始め、甘楽町・チェルタルド市・チェ市の国際文化交流推進協会・ホストファミリー・団長筆頭に第十五次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団の皆さん、本当にお世話になりました。これからも大勢のお客様に道の駅甘楽でチェルタルドの情熱を味わってもらい、私自身甘楽町とチェルタルド市の交流の一員であることを誇りに思い、日々の業務に邁進したいと思います。またいつの日か思い出の地イタリア・チェルタルドを訪れ

ることを夢見て。



## 第15次甘楽町中学生 研修団への私の思い

通訳

一ノ瀬 俊和

### 青年交流の歴史と新たなステージ

姉妹都市提携から早 31 年が過ぎたのだから、それから 3 年後に始まり途切れなく隔年ごとに派遣してきた甘楽町中学生研修団が 15 回目となるのは計算上ははっきりしている。とは言うものの、最初から同行している私としては、この年月を振り返るとき、実に感慨深いものがある。



▲サン・ジミニャーノの街を背に

制服を着てみんなとても緊張して旅立った第1次から始まり、様々な経験を経て少しずつノウハウを蓄積しながら成長してきた交流は、いまや新たなステージに入ったと言えるだろう。25周年から始まった同じ年に相互派遣を行うというプロジェクトが、すっかり定着し、その内容がとても充実してきた。昨年は、チェルタルド市に国際文化交流推進協会が発足し、甘楽町の国際交流振興協会と協力して、青年交流を強力にバックアップするようになった。このチェ市の協会は、日本に子供を派遣した親が中心となって結成されたボランティア団体だ。永年の夢であった「草の根の交流」が具体的に実を結んだ好例である。自分の子供たちを通じて青年交流の意義に共感し、それを推進しようという親が

中心となっているのだから、すべての活動に熱意がこもっている。実際、さまざまな場面で大活躍してくれ、交流事業をしっかりとサポートしてくれている。

研修団の中学生も、受け入れをしてくれたホストファミリーの家族や子供も、自然体での楽しい交流ができたと思う。その背景には、永年にわたる姉妹都市交流を通じての相互理解をベースに、青年交流で培った体験から学んだ具体的なノウハウを重ねてきた実績があるのだろう。

#### 今回の研修団の成果と反省

今回の研修団は、上に述べたように全体的に見ればとても充実したものとなり、大成功だったと言えよう。サポート体制もしっかりとしたものになって、子供たちもまるで親戚の家を訪ねたときのように、のびのびと快適に楽しく過ごすことができ、一生の思い出を胸に帰国したはずである。いつもながら、様々なイタリアの文化遺産の見学をさせてもらったり、夏ならではの海辺を訪ねたり、いくつかの家庭といっしょの賑やかな夕食をしたり、みんなでフィレンツェを見学したり、美味しいジェラートをごちそうになったり、楽しいプログラムは数え上げればきりが無い。ほぼ瞬時に日本に送られたたくさんの画像を見れば、そうした様子がよくわかるだろう。



▲視察先のフィレンツェ

他方で、そうした快適さや楽しさのなかで、ややもすると異文化体験という交流の意義を見失うきらいもあったのではないか、と思われることもあった。新たな体験の中で、感覚を研ぎ澄まし、イタリアの良さを見つけたり、日本の良さを再認識したり、反対にお互いの国のあまりよくない点を発見したり、感

じたりする視点である。

大いに楽しむのは大切だし、日常を離れた違った環境のなかで開放的になるのは当然だ。しかし、単なる物見遊山だけとなり、自分の快適さだけを求めて、時にはルールを無視して行動してしまうのは問題である。自分が滞在した家庭と友人のそれを比べて、どちらの方が広くて快適であるとか、出された料理のどちらがより美味しいとか、そんな話も少しだけ聞こえてきた。どのホストファミリーも、自分の子供以上に日本の子供たちをお世話しようと、一生懸命に動き回ってくれていた。イタリア人は子供を本当にかわいがる人たちなので、ときには過保護なくらいに面倒を見てくれる。そういう気持ちを理解できる研修団員であってほしい。

#### 今後の課題

まずは、事前研修をしっかりと行うことが重要だと思う。そのなかで、この交流の意義をしっかりと理解し、相手国イタリアのことを少しでも多く知り、最低限のコミュニケーションに必要なイタリア語を学び、海外旅行のマナーを身に付けてほしい。短い研修期間では、すべてを完璧に行うことはとても無理だろう。しかし、要点だけは十分に学び、それぞれの団員が自覚を持って旅立ってほしい、と思っている。

たしかに、夏はスポーツなどの試合や学校行事も多く、中学生たちはとても忙しい。しかし、研修団員に選ばれた人は事前研修が義務付けられているのだから、原則的には全部出席すべきだ。やむを得ず休んだ場合には、友達に研修の内容を確認しておくくらいの気構えを持ってもらいたい。

これまでの交流の映像資料も豊富にあり、先輩からの話もたくさん聞いて、以前と比べると不安は少なくなっている。相互交流の成果で、友達を再訪するという感覚もめばえ、安心感も増している。「おおいに楽しんできて！」というアドヴァイスも多く聞かれる。まさにその通りなのだ。ただ、甘楽町いや日本を代表して参加している研修団員だ、という自覚と自信を持って出発してほしい、というのが私の切なる願いである。

## チェルタルド市の 概要

チェルタルド市は、イタリア共和国トスカーナ州フィレンツェ県に属し、人口約16,000人（甘楽町は約13,700人）、面積75.24km<sup>2</sup>（甘楽町は58.57km<sup>2</sup>）の小都市です。首都ローマから北へ約210km、商業都市ミラノから



▲上の町から見たチェルタルド市街

南へ約250kmの位置で、フィレンツェ、シエナへは約30km、ピサへは約50kmの距離にあり、サンジミニャーノは隣町にあります。地形は東西に細長く広がり、外周部を農耕地が取り囲んでいます。

中心部から西側平坦地、東部から北部にかけて起伏のある丘陵地帯が続き、ブドウ、オリーブ、麦畑などが広がり、農地が点在し、遠望のきく風景の眺めは素晴らしいです。

市街は、13世紀から14世紀の古い建物が連なる丘の上のチェルタルド・アルトと呼ばれる旧城郭区域（標高約130m）と、丘の下の平坦地に区画整理された新しい市街がエルザ川流域に広がっています。

イタリアの代表的作家ジョヴァンニ・ボッカチオ（1313年～1375年代表作『デカメロン』）生誕の地であり、ボッカチオは、ダンテ、ペトラルカとともに14世紀イタリア文学の三巨星に数えられ、市民は、この地が生んだことを何よりの誇りとしています。また、市役所は、市街の中心地（標高約70m）にあり、市役所前にあるボッカチオの像が建つボッカチオ広場は、市民の憩いの広場となっています。



▲プレトリオ宮殿



▲上の町の様子（ボッカチオ通り）



▲チェルタルド市の位置



# 第1次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団

## 研修概要—1986年7月(昭和61年)—

- 18日(金) 壮行会<9:00>  
成田空港発<17:45>
- 19日(土) ローマ着<7:45>日本文化会館訪問  
チェルタルド着<18:00>受け入れ家庭へ
- 20日(日) 集合<9:00>古都フィレンツェ見学  
お祭り広場で歓迎夕食会<21:00>
- 21日(月) 集合<9:00>シエナ旧跡・サン・ジミニャーノ見学
- 22日(火) 集合<9:00>チェルタルド旧跡見学  
中学校訪問<12:00>  
交歓会<18:00>(滞在団体紹介、お土産交換)
- 23日(水) 集合<7:30>チェルタルド発  
ピサの斜塔・ミラノ旧跡見学  
ミラノ発<18:35>  
パリ空港到着<20:20>
- 24日(木) 集合<9:00>パリ市内見学(ルーブル博物館等)  
パリ発<20:00>  
ローマ空港着<22:00>
- 25日(金) 集合<9:00>  
ローマ市内見学(ヴァチカン宮殿博物館等)
- 26日(土) 帰国準備<10:00>  
ローマ空港発<12:30>
- 27日(日) 成田空港着<14:55>  
甘楽町着<20:15>

## 団員名簿

役 職	氏 名	住 所	備 考
団 長	佐藤茂連	甘楽町大字小川	教育長
随 行 員	井上伸栄	〃 上野	議会議員
〃	浅香忠	富岡市一ノ宮	教 諭
〃	新井順子	甘楽町大字金井	教 諭
通 訳	一ノ瀬俊和	鎌倉市極楽寺	

氏 名	所 属	性別	住 所	チェルタルド市受入家庭
野 尻 忠	一中2-A	男	甘楽町大字上野	フランコ・ルスキ
小河原 淳	一中2-B	男	〃 天引	FRANCO LUSCHI
山 田 博 音	一中2-C	男	〃 金井	マルチェロ・ベケリーニ
伊 藤 昌 弘	一中2-D	男	〃 福島	MARCELLO BECHERINI
小 菅 照 美	一中2-B	女	〃 金井	アルフィエロ・チャンポリーニ
相 川 真 美	一中2-D	女	〃 福島	ALFIERO CIAMPOLINI
佐 藤 真 理 子	一中2-C	女	〃 福島	カルロ・ナッチ
春 山 典 子	一中2-A	女	〃 造石	CARLO NACCI
長 岡 邦 江	一中2-B	女	〃 造石	フランコ・フィアスキ
茂 原 順 子	二中2-B	女	〃 小幡	FRANCO FIASCHI
島 尻 光 子	一中3-B	女	〃 上野	レオネット・フィアスキ
吉 田 美 紀	一中3-B	女	〃 庭谷	LEONETTO FIASCHI
吉 田 裕 一	一中2-D	男	〃 庭谷	ネヴィオ・ヴァンニ
加 藤 英 明	二中2-A	男	〃 善慶寺	NEVIO VANNI
柴 山 喜 行	二中2-A	男	〃 轟	アンドレア・スピーニ
長 岡 芳 範	二中2-A	男	〃 小幡	ANDREA SPINI
高 橋 牧 子	二中3-A	女	〃 小幡	アルマンド・プラテージ
新 井 礼 子	二中3-B	女	〃 上野	ARMANDO PRATESI
土 屋 薫 里	二中3-A	女	〃 上野	メテロ・バルタリーニ
中 野 みゆき	二中3-B	女	〃 国峰	METELLO BARTALINI

## 第2次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団

### 研修概要－1988年8月(昭和63年)－

- 20日(土) 壮行会<13:00>  
甘楽町出発<14:00>成田空港着<20:40>成田空港発(JAL421便)<22:30>
- 21日(日) ロンドン着(BA304便でパリへ)<8:30>パリ着(AZ335便でローマへ)<12:10>  
ローマ空港着後、市内見学(ヴァチカン市国等)<14:10>  
ホテル着<18:00>
- 22日(月) 集合<9:30>終日 ローマ市内見学(コロッセオ、カタコンベ等)  
ホテル着<18:40>(ホームステイについて最終打合せ)
- 23日(火) テルミニ駅よりフィレンツェへ 駅到着<12:15>  
チェルタルド着<17:10>(上の町、プレトリオ宮殿等見学)  
セレモニー(受け入れ家庭の紹介、引渡し)<18:30>
- 24日(水) 集合<9:00>終日 ピサ見学
- 25日(木) 集合<9:00>フィレンツェに向け出発(ウフィッツィ美術館、ドゥオーモ見学)
- 26日(金) 集合<9:00>チェルタルド施設(学校、スポーツ施設等)サン・ジミニャーノ、シエナ見学
- 27日(土) ヴィンチ村に向け出発<9:00>レオナルド博物館見学  
お別れ夕食会<12:30>
- 28日(日) 集合<9:00>ベニスへ  
ベニス着<13:30>サンマルコ寺院見学、ゴンドラ乗船など  
ホテル着<19:00>
- 29日(月) ミラノに向け出発(AZ304便)<8:30>  
途中ヴェローナ見学ミラノ着<17:00>  
ロンドン着<18:50>ロンドン発(JAL402便)<20:15>
- 30日(火) 成田空港着<15:30>  
甘楽町着<20:30>

### 団員名簿

役 職	氏 名	住 所	備 考
団 長	木 村 隆 男	甘楽町大字小幡	教育委員長
随 行 員	山 田 寅 太 郎	" 小幡	議会議員
"	森 平 仁 子	" 天引	教 諭
"	中 野 哲 也	" 国峰	町 職 員
通 訳	一ノ瀬 俊 和	東京都豊島区千早	

氏 名	所 属	性 別	住 所	チェルタルド市受入家庭
鶴 田 千 春	一中2-A	女	甘楽町大字福島	ロベルト・ビージ
吉 田 恭 子	一中2-B	女	" 庭谷	ROBERTO BIGI
山 田 学	一中2-B	男	" 白倉	ロベルト・ボルギーニ
小 柏 尊 明	一中2-B	男	" 天引	ROBERTO BORGHINI
梅 田 勇 人	一中2-C	男	" 福島	レンツォ・ピストレージ
鈴 木 重 紀	一中2-C	男	" 庭谷	RENZO PISTOLESI
吉 田 和 代	一中2-C	女	" 小川	カルラ・トゥルキ
野 本 明 子	一中2-C	女	" 天引	CARLA TURCHI
山 崎 玲 子	一中2-C	女	" 天引	ロレンツォ・メッツェッティ
根 岸 めぐみ	一中3-D	女	" 福島	LORENZO MEZZETTI
斎 藤 雅 文	二中2-A	男	" 小幡	アレッサンドロ・コルティ
山 田 和 仁	二中2-A	男	" 小幡	ALESSANDRO CORTI
松 井 貴 子	二中2-A	女	" 小幡	メッテロ・バルタリーニ
松 井 美 穂	二中2-B	女	" 轟	METELLO BARTALINI
斎 藤 廣 美	二中3-A	女	" 国峰	クーリオ・マルコッチィ
横 尾 かおり	二中3-A	女	" 小幡	CURIO MARCOCCI
浅 香 和 代	二中3-B	女	" 小幡	フォスコ・ガルガーニ
田 村 かおる	三中3年	女	" 秋畑	FOSCO GALGANI
桜 井 基 雄	一中3-D	男	" 庭谷	ネヴィオ・ヴァンニ
桜 井 勝 彦	三中3年	男	" 秋畑	NEVIO VANNI

## 第3次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団

### 研修概要－1990年8月(平成2年)－

- 17日(金) 壮行会(役場大会議室)＜10:00＞甘楽町役場出発＜11:00＞  
成田空港着＜16:00＞成田空港発(アリタリア航空791便)＜19:00＞
- 18日(土) デリリー着＜2:50＞ローマ着＜5:00＞ローマ発(アリタリア航空1120便)＜9:45＞  
ピサ着＜10:20＞ピサ発＜17:15＞チェルタルド着＜18:20＞
- 19日(日) 各受け入れ家庭での生活
- 20日(月) 各受け入れ家庭での生活
- 21日(火) 集合＜9:00＞電車にてフィレンツェに向け出発(終日フィレンツェ見学)＜9:39＞
- 22日(水) 各受け入れ家庭での生活 coop集合(coop見学、交流)＜16:00＞
- 23日(木) バスにて終日シエナ見学＜9:00＞チェルタルド着＜17:30＞
- 24日(金) 各受け入れ家庭での生活
- 25日(土) バスにてヴィンチ村へ(レオナルド博物館、生家見学)＜9:00＞  
お別れ昼食会＜13:00＞
- 26日(日) 集合＜8:00＞チェルタルド発＜8:30＞  
ローマ着後、市内見学(カタコンベ、トレヴィの泉等)  
ホテル着＜17:00＞
- 27日(月) 終日 ローマ市内見学(ヴァチカン市国、コロッセオ等)＜9:00＞  
ホテル着＜18:30＞
- 28日(火) ホテル発＜9:00＞ローマ空港着＜10:00＞  
ローマ発(アリタリア航空786便)＜13:00＞
- 29日(水) 成田空港着＜14:40＞  
甘楽町役場着＜21:35＞

### 団員名簿

役職	氏名	住所	備考
団長	近藤 浩	甘楽町大字福島	教育委員長
随員	由田 君代	富岡市一ノ宮	教諭
〃	五十里比登志	〃 田篠	町職員
通訳	一ノ瀬 俊和	東京都豊島区千早	

氏名	所属	性別	住所	チェルタルド市受入家庭
飯塚 有美	大学生	女	甘楽町大字小幡	リード・ウリヴィエーリ LIDO ULIVIERI
浅川 純子	一中3-A	女	〃 白倉	エーニオ・フレージ
井上 智美	一中3-B	女	〃 天引	ENIO FURESI
相川 優子	一中3-C	女	〃 福島	アクウイリーノ・チェリオーニ
藤巻 由紀美	一中3-D	女	〃 小川	AQUILINO CERIONI
野口 修平	一中2-A	男	〃 白倉	アレッサンドロ・コルティ
山崎 匡亮	一中2-C	男	〃 天引	ARESSNDRO CORTI
山田 麻記子	一中2-B	女	〃 白倉	ネヴィオ・ヴァンニ
清水 理英子	二中2-B	女	〃 善慶寺	NEVIO VANNI
柴山 治子	二中3-A	女	〃 轟	レンツォ・ピストレージ
吉田 真知子	二中3-B	女	〃 上野	RENZO PISTOLESI
長岡 いづみ	一中3-D	女	〃 造石	カルラ・トウルキ
仲條 美智子	二中3-B	女	〃 国峰	CARLA TURCHI
仲條 裕子	二中2-A	女	〃 国峰	アルベルト・カヴァッリーニ
中山 真紀	二中2-B	女	〃 国峰	ALBERTO CAVALLINI
吉田 真実	一中2-A	女	〃 庭谷	マルチェッロ・ポッジエージ
吉田 深雪	二中2-A	女	〃 上野	MARCELLO POGGESI
三木 宏未	一中2-C	女	〃 金井	ジュゼッペ・ティンティ
松井 夕子	二中2-B	女	〃 轟	GIUSEPPE TINTI
中野 あゆみ	三中2年	女	〃 秋畑	メッテロ・バルタリーニ
黛 佳穂里	三中2年	女	〃 秋畑	METELLO BARTALINI



## 第4次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団

### 研修概要－1992年8月(平成4年)－

- 17日(月) 甘楽町役場出発<4:30>  
成田空港着<9:00>成田空港発(アリタリア航空1787便)ミラノ着<17:10>  
ホテル着<19:00>
- 18日(火) ホテル発<9:00>  
ミラノ市内見学(ドウオーモ、スカラ座等)ミラノ発<13:30>  
チェルタルド着<18:30>対面式、歓迎式後、各受け入れ家庭へ
- 19日(水)～ 各受け入れ家庭での生活
- 21日(金) 各受け入れ家庭での生活
- 22日(土) チェルタルド駅集合<8:30>フィレンツェ市内見学(ドウオーモ、ウフィッツィ美術館等)<8:40>
- 23日(日) 各受け入れ家庭での生活
- 24日(月) シエナ市内見学(ドウオーモ、カンポ広場、国立美術館等)<8:30>  
チェルタルド着<13:00> coop集合(対話集会、coop見学)<17:00>
- 25日(火) 集合<9:00>バスでヴィンチ村へ(レオナルド博物館、生家見学)  
お別れ昼食会<13:00>
- 26日(水) 集合<8:00>チェルタルド発<8:30>  
ローマ着後、市内見学(トレヴィの泉、カタコンベ等)ホテル着<17:00>
- 27日(木) 終日 ローマ市内見学(ヴァチカン市国、コロッセオ等)<9:00>  
ホテル着<17:00>
- 28日(金) ホテル発<9:00>  
ローマ発(アリタリア航空1782便)<14:00>ミラノ経由
- 29日(土) 成田空港着<11:30>  
甘楽町役場着<17:10>

### 団員名簿

役 職	氏 名	住 所	備 考
団 長	茂 原 武	甘楽町大字小幡	教育委員長
随 行 員	佐 藤 稔 恵	妙義町大字下高田	教 諭
"	富 岡 朝 男	甘楽町大字善慶寺	町 職 員
通 訳	一ノ瀬 俊 和	川崎市幸区中幸町	

氏 名	所 属	性別	住 所	チェルタルド市受入家庭
富 田 真 一	一中2-1	男	甘楽町大字天引	エンツォ・ミリオリーニ
吉 田 哲 也	一中2-2	男	" 白倉	ENZO MIGLIORINI
茂 木 光 子	一中2-2	女	" 白倉	ガエターノ・カルーゾ
松 井 沙 織	一中2-3	女	" 小川	GAETANO CARUSO
吉 田 英 誉	一中2-4	男	" 福島	フランコ・レツリ
星 野 善 隆	二中3-B	男	" 小幡	FRANCO LELLI
井野口 美 咲	一中2-4	女	" 小川	ジュリアーノ・プッチ
佐 俣 友 紀	一中2-4	女	" 白倉	GIULIANO PUCCI
杉 山 陽 子	二中3-B	女	" 小幡	カルラ・トゥルキ
瀧 上 記 代	二中3-B	女	" 小幡	CARLA TURCHI
富 岡 紀 満	二中2-A	男	" 善慶寺	レンツォ・ピストレージ
斎 藤 知 意	二中2-B	男	" 小幡	RENZO PISTOLESI
斎 藤 栄 利子	二中2-A	女	" 小幡	ダニーロ・ベッリ
田 村 仁 子	二中2-A	女	" 国峰	DANILO BELLI
中 野 由 加 利	二中2-B	女	" 国峰	ガブリエッロ・セツリ
丸 澤 亜 矢子	二中2-B	女	" 善慶寺	GABRIELLO SELLI
新 井 渚	三中3年	女	" 秋畑	ロレンツォ・メッツェッティ
松 井 優 香 里	三中3年	女	" 秋畑	LORENZO MEZZETTI
飯 塚 信 一	三中2年	男	" 秋畑	パルミーロ・チェッティ
中 野 雅 和	三中2年	男	" 秋畑	PALMIRO GETTI

## 第5次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団

### 研修概要 - 1994年8月(平成6年) -

- 17日(水) 甘楽町役場出発<5:30>  
成田空港着<8:30>成田空港発(アリタリア航空785便)<12:00>ミラノ着<17:10>  
ホテル着<18:40>
- 18日(木) ホテル発<8:50>  
ミラノ市内見学(サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会、ドウオーモ等)  
ミラノ発<13:30>チェルタルド着<18:30>対面式、歓迎式後、各受け入れ家庭へ
- 19日(金) 各受け入れ家庭での生活
- 20日(土) チェルタルド駅集合<8:00>フィレンツェ市内見学(ドウオーモ、ウフィツィ美術館等)  
チェルタルド駅着<18:20>各受け入れ家庭へ
- 21日(日) 各受け入れ家庭での生活
- 22日(月) 各受け入れ家庭での生活
- 23日(火) シエナ市内見学(ドウオーモ、カンポ広場、国立美術館等)  
各受け入れ家庭へ<13:00>(男子はプロサッカー観戦、女子はショッピング)
- 24日(水) 各受け入れ家庭での生活
- 25日(木) バスでヴィンチ村へ(レオナルド博物館、生家見学)<9:00>  
お別れ昼食会(合唱披露)<13:00>
- 26日(金) 集合<7:45>チェルタルド発<8:00>  
ローマ着後、市内見学(トレヴィの泉、コロッセオ)
- 27日(土) 集合<9:00>終日 ローマ市内見学(ヴァチカン市国等)  
ホテル着<18:10>
- 28日(日) ホテル発<9:00>  
ローマ発(アリタリア航空1790便)<12:45>ミラノ経由
- 29日(月) 成田空港着<9:10>  
甘楽町役場着<14:30>

### 団員名簿

役職	氏名	住所	備考
団長	関 俊 雄	甘楽町大字上野	教育委員長
随員	武 井 紀 子	富岡市富岡	教 諭
"	田 村 省 三	甘楽町大字小川	町 職 員
通 訳	一ノ瀬 俊 和	川崎市幸区中幸町	

氏名	所属	性別	住所	チェルタルド市受入家庭
新井 拓 郎	一中2-2	男	甘楽町大字福島	バンディネッリ・ヴィニーチョ BANDINELLI VINICIO
吉田 宣 之	一中2-2	男	" 庭谷	
高麗 悠 樹	一中2-3	男	" 金井	チェンニ・ルチャーノ GENNI LUCIANO
丸澤 順 一	二中2-A	男	" 善慶寺	
新井 博 亮	一中3-1	男	" 白倉	ボルギ・マウリツィオ BORGI MAURIZIO
田村 浩 二	三中3年	男	" 秋畑	
松田 望	二中3-B	男	" 小幡	ルスキ・フランコ LUSCHI FRANCO
宮城 洋 一	二中3-B	男	" 小幡	
田村 美 緒	一中2-2	女	" 小川	ストランビ・フェルディナンド STRAMBI FERDINANDO
田村 裕 美	二中2-B	女	" 小幡	
江原 めぐみ	一中2-4	女	" 金井	ペトルチョーネ・ミカエル PETRUCIONE MICHAEL
井野口 真 弓	一中3-4	女	" 小川	
堀口 愛	一中3-4	女	" 天引	ドルチェ・ジュゼッペ DOLCE GIUSEPPE
松井 由 紀	一中3-4	女	" 小川	
片田 理 恵	二中2-A	女	" 小幡	モンタニャーニ・ルチャーノ MONTAGNANI LUCIANO
倉 嶋 歩 美	二中2-A	女	" 小幡	
田 中 美 智	二中2-A	女	" 小幡	カヴァッリーニ・アルベルト CAVALLINI ALBERTO
佐藤 愛	二中2-B	女	" 上野	
井上 広 美	三中3年	女	" 秋畑	チャボ・ヴィンツェンツォ CIABO VINCENZO
松井 瑠 美	三中3年	女	" 秋畑	

## 第6次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団

### 研修概要－1996年8月(平成8年)－

- 16日(金) 甘楽町役場出発<5:00>  
成田空港着<8:45>成田空港発(アリタリア航空789便)<11:45>ミラノ着<17:10>  
ホテル着<19:00>
- 17日(土) ホテル発<8:30>  
ミラノ市内見学(サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会、ドウオーモ等)ミラノ発<13:30>  
チェルタルド着<18:30>対面式、歓迎式後、各受け入れ家庭へ
- 18日(日) 各受け入れ家庭での生活
- 19日(月) 各受け入れ家庭での生活
- 20日(火) シエナ市内見学(ドウオーモ、カンポ広場等)<8:40>各受け入れ家庭へ<13:40>
- 21日(水) 各受け入れ家庭での生活
- 22日(木) チェルタルド駅集合<8:45>フィレンツェ市内見学(ドウオーモ、シニョリーア広場等)  
チェルタルド駅着<18:20>各受け入れ家庭へ
- 23日(金) 各受け入れ家庭での生活
- 24日(土) バスでヴィンチ村へ(レオナルド博物館、生家見学)<8:50>  
お別れ昼食会<13:00>  
各受け入れ家庭へ<16:00>
- 25日(日) 集合<8:30>チェルタルド発<8:40>ローマ着後、市内見学(トレヴィの泉、パンテオン神殿等)
- 26日(月) ホテル発<8:30>  
終日ローマ市内見学(ヴァチカン美術館、コロッセオ等)  
ホテル着<18:00>
- 27日(火) ホテル発<9:00>  
ローマ発(アリタリア航空788便)<12:30>ミラノ経由
- 28日(水) 成田空港着<9:30>  
甘楽町役場着<15:00>

### 団員名簿

役 職	氏 名	住 所	備 考
団 長	田 村 昭	甘楽町大字秋畑	教育委員長
随 行 員	掛 川 ヒカル	多野郡吉井町大字吉井	教 論
”	増 田 剛 久	甘楽町大字秋畑	町 職 員
通 訳	一ノ瀬 俊 和	川崎市幸区中幸町	

氏 名	所 属	性 別	住 所	チェルタルド市受入家庭
篠原 早紀	一中2-1	女	甘楽町大字白倉	マウロ・コルシ
吉井 清香	一中2-2	女	” 福島	MAURO CORSI
新井 利典	一中2-4	男	” 福島	フランチェスコ・マドニーア
高木 越夫	一中2-4	男	” 天引	FRANCESCO MADONIA
新井 絵里子	一中2-4	女	” 福島	ガエターノ・カルーソ
神宮 智美	一中2-4	女	” 白倉	GAETANO CARUSO
松井 恵	一中2-4	女	” 小川	マルコ・ヴォルテラーニ
横山 知佳	一中2-4	女	” 天引	MARCO VOLTERRANI
小金澤 香奈	一中3-1	女	” 白倉	ルチャーノ・アントニオ
鈴木 理絵	一中3-1	女	” 福島	LUCIANO ANTONIO
高橋 麻利子	一中3-1	女	” 福島	フィorenzo ヴェリデーニ
吉田 律子	二中3-B	女	” 上野	FIorenzo VERIDIANI
高橋 洋平	一中3-3	男	” 白倉	エンツォ・ミリオリーニ
松井 秀樹	三中3年	男	” 秋畑	ENZO MIGLIORINI
高橋 美穂	二中2-A	男	” 善慶寺	ネヴィオ・ヴァンニ
山田 浩二	二中2-A	男	” 轟	NEVIO VANNI
松井 真理子	二中2-A	女	” 轟	ジャンフランコ・レンシ
松井 陽子	三中2年	女	” 秋畑	GIANFRANCO RENCİ
田村 智恵	三中2年	女	” 秋畑	ロベルト・ビージ
増田 容子	三中2年	女	” 秋畑	ROBERTO BIGI



## 第7次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団

### 研修概要—1998年8月(平成10年)—

- 14日(金) 甘楽町役場出発<4:15>  
成田空港着<7:20>成田空港発(アリタリア航空789便)<12:50>途中ウィーンにて給油ミラノ着<19:10>  
ホテル着<21:00>
- 15日(土) ホテル発<8:10>  
ミラノ市内見学(サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会、ドウオーモ等)  
ホテル着<20:40>
- 16日(日) ホテル発<8:00>  
チェルタルド着<12:45>各受け入れ家庭 歓迎式<22:00>
- 17日(月) 各受け入れ家庭での生活 二中学生ポッカチオ中学校訪問<11:00>
- 18日(火) シエナ市内見学(ドウオーモ、カンポ広場等)<8:45>各受け入れ家庭へ<12:30>
- 19日(水) 各受け入れ家庭での生活
- 20日(木) チェルタルド駅集合<8:43>フィレンツェ市内見学(ドウオーモ、シニョリーア広場等)  
チェルタルド駅着<18:00>各受け入れ家庭へ
- 21日(金) チェルタルド市内郊外のプールへ  
各受け入れ家庭での生活
- 22日(土) バスでヴィンチ村へ<8:50>お別れ昼食会<13:00>各受け入れ家庭へ<16:30>
- 23日(日) 集合<7:30>チェルタルド発<8:22>  
ローマ着後、市内見学(トレヴィの泉、コロッセオ等)
- 24日(月) ホテル発<9:15>  
終日 ローマ市内見学(ヴァチカン美術館、カタコンベ等)  
ホテル着<21:00>
- 25日(火) ホテル発<8:43>  
ローマ発(アリタリア航空788便)<12:10>ミラノ経由
- 26日(水) 成田空港着<8:55>  
甘楽町役場着<14:40>

### 団員名簿

役 職	氏 名	住 所	備 考
団 長	春 山 安 弘	甘楽町大字造石	教育委員長
随 行 員	高 橋 茂	〃 金井	町 職 員
〃	斎 藤 廣 美	〃 福島	町 職 員
通 訳	一ノ瀬 俊 和	東京都稲城市矢野口	

氏 名	所 属	性 別	住 所	チェルタルド市受入家庭
高 麗 哲 人	一中3-3	男	甘楽町大字金井	セルジョ・プロータジ
中 島 源 嘉	一中3-4	男	〃 天引	SERGIO PROTASI
高 橋 香 織	一中2-1	女	〃 白倉	フィオレンツォ・ヴェリデアーニ
篠 原 香 奈	一中2-1	女	〃 福島	FIorenzo VERIDIANI
山 本 育 美	一中2-3	女	〃 福島	セルジョ・ヴァレンティーニ
矢 嶋 美 紀	一中2-3	女	〃 福島	SERGIO VALENTINI
吉 沢 亜 希 奈	一中3-1	女	〃 金井	ロベルト・ビージ
山 口 優 香	一中3-4	女	〃 福島	ROBERTO BIGI
田 村 智 也	二中2-B	男	〃 善慶寺	カルロ・ザーリ
飯 塚 崇 史	三中3年	男	〃 秋畑	CARLO ZARI
吉 田 明 穂	二中2-A	女	〃 上野	ファビオ・カルベッティ
関 谷 あ ず さ	二中2-A	女	〃 善慶寺	FABIO CALVETTI
中 野 博 美	二中3-A	女	〃 小幡	ルチャーノ・ヴォルトリーニ
柴 山 樹 利	二中3-B	女	〃 善慶寺	LUCIANO VOLTOLINI
田 中 沙 織	二中2-B	女	〃 小幡	レナート・ストランビ
浅 香 直 美	三中3年	女	〃 秋畑	RENATO STRAMBI

## 第8次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団

### 研修概要－2000年8月(平成12年)－

- 14日(月) 甘楽町役場出発<5:25>  
成田空港着<8:35>成田空港発(アリタリア航空789便)<12:50>ミラノ着<17:35>  
ホテル着<19:30>
- 15日(火) ホテル発<9:05>  
ミラノ市内見学(スフォルツェスコ城、レオナルド・ダ・ヴィンチ博物館、ドウオーモ等)  
ホテル着<21:00>
- 16日(水) ホテル発<8:00>  
チェルタルド着<12:40>各受け入れ家庭へ 歓迎式<21:25>
- 17日(木) 各受け入れ家庭での生活
- 18日(金) チェルタルド駅集合<8:45>フィレンツェ市内見学(ドウオーモ、シニョリーア広場等)  
チェルタルド駅着<18:10>各受け入れ家庭へ
- 19日(土) バスでピサ市へ移動後、市内見学(斜塔、ドウオーモ等)<8:50>  
チェルタルド着<13:20>各受け入れ家庭へ
- 20日(日) 各受け入れ家庭での生活
- 21日(月) チェルタルド市内見学(小中学校、老人ホーム)<9:30>  
各受け入れ家庭へ<11:30>
- 22日(火) バスでシエナ市へ移動後、市内見学(ドウオーモ、国立絵画館、カンポ広場)<8:40>  
お別れ昼食会<13:15>各受け入れ家庭へ<16:30>
- 23日(水) 集合<8:00>チェルタルド発<8:25>  
ローマ着後、市内見学(スペイン広場、トレヴィの泉、コロッセオ)<12:30>  
ホテル着<21:30>
- 24日(木) ホテル発<9:00>  
終日 ローマ市内見学(ヴァチカン美術館、カタコンベ等)  
ホテル着<21:00>
- 25日(金) ホテル発<8:30>  
ローマ発(国内線でミラノへ)<11:40>ミラノ発(アリタリア航空786便)<15:05>
- 26日(土) 成田空港着<9:55>  
甘楽町役場着<14:30>

### 団員名簿

役職	氏名	住所	備考
団長	堀越武男	甘楽町大字福島	教育委員
随員	新井貞行	〃 天引	町職員
〃	山田雅	〃 小幡	町職員
通訳	一ノ瀬俊和	東京都稲城市矢野口	

氏名	所属	性別	住所	チェルタルド市受入家庭
柳澤正典	一中3-3	男	甘楽町大字福島	カルロ・ザーリ
野口大地	一中3-3	男	〃 白倉	CARLO ZARI
古館龍	一中2-2	男	〃 天引	ネヴィオ・ヴァンニ
松原正貴	一中2-2	男	〃 福島	NEVIO VANNI
高木崇史	二中2-A	男	〃 小幡	フィオレンツォ・ヴェリディアニ
田村陽介	三中3年	男	〃 秋畑	FIorenzo VERIDIANI
反町美穂	一中3-3	女	〃 金井	ジャコモ・カンパネッラ
山田千鶴	一中3-2	女	〃 天引	GIACOMO CAMPANELLA
堀口麻衣	一中2-2	女	〃 白倉	レンツォ・モンタニャーニ
吉田智美	一中2-2	女	〃 庭谷	RENZO MONTAGNANI
堀口望美	一中2-4	女	〃 福島	ロベルト・ビージ
山田瑞希	一中2-4	女	〃 福島	ROBERTO BIGI
高橋京子	一中2-3	女	〃 白倉	ルチャーノ・ナルディ
矢嶋さおり	一中2-1	女	〃 福島	LUCIANO NALDI
熊井戸彰子	二中2-B	女	〃 小幡	ティツィアーノ・ヴォルテッラーニ
山田桃子	二中2-B	女	〃 小幡	TIZIANO VOLTERRANI

## 第9次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団

### 研修概要－2002年8月(平成14年)－

- 17日(土) 甘楽町役場出発<5:30>  
成田空港着<9:00>成田空港発(アリタリア航空AZ787便)<12:30>ミラノ着<18:35>  
ホテル着<20:00>
- 18日(日) ホテル発<8:50>  
ミラノ市内見学(スフォルツェスコ城、スカラ座、ビットリオ・エマヌエレ2世ガレリア、ドウオーモ等)  
バスでフィレンツェへ移動後、ホテル着<18:30>
- 19日(月) ホテル発<9:00>  
フィレンツェ市内見学(ベッキオ橋、シニョリーア広場、サンタ・マリア・デル・フィオーレ等)  
バスでチェルタルドへ移動後、各受け入れ家庭へ <13:30>  
研修団歓迎レセプション<21:00>
- 20日(火) 市内の小中学校、老人ホーム、図書館を見学<10:00>各受け入れ家庭へ <13:00>
- 21日(水) 各受け入れ家庭での生活
- 22日(木) バスでピサ市へ移動後、市内見学(ドウオーモ、洗礼堂、斜塔)<9:40>  
各受け入れ家庭へ 家庭訪問(4軒)<16:00>
- 23日(金) バスでシエナ市へ移動後、市内見学(ドウオーモ、国立絵画館、カンポ広場)<9:30>  
各受け入れ家庭へ 家庭訪問(3軒)<17:00>
- 24日(土) 各受け入れ家庭での生活
- 25日(日) 各受け入れ家庭での生活 お別れ夕食会<20:30>
- 26日(月) 集合<8:00>チェルタルド発<8:10>  
ローマ着後、市内見学(コロッセオ、トレヴィの泉、スペイン広場)<12:30>  
ホテル着<21:30>
- 27日(火) 終日ローマ市内見学(ヴァチカン美術館、サンピエトロ寺院、真実の口(サンタ・マリア・イン・コスメティン教会)、カコンベ)<7:45>  
ホテル着<21:00>
- 28日(水) ホテル発 <8:30>  
ローマ空港着<9:20>ローマ発<13:40>ミラノ発(アリタリア航空AZ786便)<15:20>
- 29日(木) 成田空港着<10:35>  
甘楽町役場着<16:00>

### 団員名簿

役 職	氏 名	住 所	備 考
団 長	田 村 信 昌	甘楽町大字秋畑	教育委員
随 行 員	柳 澤 千 枝 子	〃 善慶寺	町 職 員
〃	横 尾 弘	〃 小川	町 職 員
通 訳	一ノ瀬 俊 和	東京都稲城市矢野口	

氏 名	所 属	性 別	住 所	チェルタルド市受入家庭
茂 木 啓 佑	一中3-1	男	甘楽町大字福島	カルロ・ザーリ
山 田 渉	一中3-2	男	〃 白倉	CARLO ZARI
保 坂 翔 一	一中3-3	男	〃 福島	ネヴィオ・ヴァンニ
菊 池 健 太	一中2-1	男	〃 白倉	NEVIO VANNI
中 村 勇 紀	一中2-2	男	〃 小川	ロベルト・セリヤーコピ
小 澤 和 征	二中2-A	男	〃 小幡	ROBERTO SERIACOPI
齊 藤 美 穂	一中3-1	女	〃 白倉	ジャンカルロ・ガロージ
星 野 裕 香	一中3-1	女	〃 造石	GIANCARLO GAROSI
小 林 輝 世	一中3-3	女	〃 白倉	ファビオ・フィミア
墨 谷 綾 華	一中3-3	女	〃 小川	FABIO FIMIA
高 橋 綾 菜	一中2-1	女	〃 金井	ダニエレ・カンティーニ
大河原 由 貴	一中2-2	女	〃 金井	DANIELE CANTINI
田 村 沙 登 美	二中3-A	女	〃 小幡	ルチャーノ・ナルディ LUCIANO NALDI
森 田 千 奈	二中3-B	女	〃 善慶寺	
中 野 香	三中3年	女	〃 秋畑	
増 田 香 奈 恵	三中2年	女	〃 秋畑	



# 第10次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団

## 研修概要－2004年8月(平成16年)－

- 14日(土) 甘楽町役場出発<6:30>  
成田空港着<9:45>成田空港発(アリタリア航空AZ787便)<13:00>ミラノ着<18:12>  
通訳一ノ瀬氏と合流<19:30>  
ホテル着<22:00>
- 15日(日) ホテル発<8:30>  
ミラノ市内見学(ドウオーモ、ガレリア、スカラ座、サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会、スフォルツェスコ城等)  
バスでフィレンツェへ移動後、ホテル着<18:15>
- 16日(月) ホテル発<9:00>  
フィレンツェ市内見学(ドウオーモ、ポンテベッキオ橋、シニョリーア広場、ヴェッキオ宮殿等)  
バスでチェルタルドへ移動後、各受け入れ家庭へ <13:10>  
研修団歓迎レセプション<21:30>
- 17日(火) 各受け入れ家庭での生活
- 18日(水) 各受け入れ家庭での生活 家庭訪問(7軒)
- 19日(木) 施設見学(アリーチェ・ストウリアーレ幼稚園、体育館、イ・ティーリデイサービスセンター、ジョヴァンニ・ボッカチオ中学校)  
ポリス協会会場にて交流会(ワークショップ)<16:30>
- 20日(金) バスでシエナ市へ移動後、市内見学(カンポ広場、ドウオーモ、博物館)<8:30>  
各受け入れ家庭へ 家庭訪問(1軒)<19:00>
- 21日(土) 各受け入れ家庭での生活 お別れ夕食会<19:30>
- 22日(日) 集合<8:00>チェルタルド発  
ローマ着後、市内見学(コロッセオ、パンテオン、トレヴィの泉、スペイン広場等)<12:00>  
ホテル着<22:00>
- 23日(月) ホテル発 <7:45>  
終日 ローマ市内見学(ヴァチカン美術館、サンピエトロ寺院、真実の口、カタコンベ、ローマ三越、テルミニ駅地下)<7:45>  
ホテル着<21:30>
- 24日(火) ホテル発 <9:30>  
ローマ空港着<9:20>ローマ発(アリタリア航空AZ784便)<13:05>
- 25日(水) 成田空港着<7:12>  
甘楽町役場着<13:45>

## 団員名簿

役職	氏名	住所	備考
団長	吉田 恭一	甘楽町大字上野	議会議長
随行員	佐俣 米子	〃 白倉	町職員
〃	森平 仁志	〃 天引	町職員
通訳	一ノ瀬 俊和	東京都稲城市矢野口	国立音楽大学准教授

氏名	所属	性別	住所	チェルタルド市受入家庭
齋藤 真耶	一中2-2	女	甘楽町大字白倉	ファビオ・カルヴェッティ
堀口 あずさ	一中2-2	女	〃 小川	FABIO CALVETTI
矢嶋 千春	一中2-3	女	〃 福島	ルチャーノ・ダントーニオ
三木 望実	一中2-3	女	〃 白倉	LUCIANO DANTONIO
鈴木 彩子	一中3-1	女	〃 庭谷	ティツィアーノ・ヴォルテラーニ
新嶋 愛	一中3-1	女	〃 上野	TIZIANO VOLTERRANI
保坂 美里	一中3-1	女	〃 福島	ルチャーノ・ナルディ
五十里 志穂	一中3-2	女	〃 天引	LUCIANO NALDI
市川 優梨	一中2-3	女	〃 福島	ムッセッティ・アドリアーノ
新井 敦子	一中3-3	女	〃 造石	MUSSETTI ADRIANO
清水 寧久	一中3-2	男	〃 造石	ロベルト・セリヤーコピ
高麗 雄一郎	二中3-A	男	〃 善慶寺	ROBERTO SERIACOPI
峯岸 拓也	一中2-2	男	〃 天引	ダニエーレ・ラッゼレッティ
飯塚 大晃	三中2年	男	〃 秋畑	DANIELE LAZZERETTI
高麗 真維佳	二中2-A	女	〃 国峰	サルヴァトーレ・ヴァッカーロ
田村 佳子	三中2年	女	〃 秋畑	SALVATORE VACCARO

# 第11次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団

## 研修概要－2006年8月(平成18年)－

- 16日(水) 甘楽町役場出発<6:30>  
成田空港着<9:40>成田空港発(アリタリア航空AZ787便)<13:05>ミラノ着<17:45>  
ホテル着<20:50>
- 17日(木) ホテル発<8:00>  
ミラノ市内見学(ドゥオーモ、ガレリア、スカラ座、サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会、スフォルツェスコ城等)  
バスでフィレンツェへ移動後、ホテル着<17:45>
- 18日(金) ホテル発<9:00>  
フィレンツェ市内見学(ドゥオーモ、ポンテベッキオ橋、シニョリーア広場、ヴェッキオ宮殿、ウフィッツ美術館等)  
バスでチェルタルドへ移動後、チェルタルド市着 <16:30>  
プレトリオ宮殿にて歓迎式後、受入家庭へ<18:00>
- 19日(土) 各受け入れ家庭での生活
- 20日(日) 各受け入れ家庭での生活
- 21日(月) チェルタルド市発<8:50>バスでシエナへ移動<9:45>市内見学(カンポ広場、ドゥオーモ)  
バスでピエンツァへ移動後、昼食<13:30> 昼食後、市内見学  
チェルタルド市着<18:00> 各受入家庭へ
- 22日(火) 各受け入れ家庭での生活 家庭訪問(8家庭)
- 23日(水) 市内施設見学<10:00>(スポーツ施設、幼稚園、小中学校等)  
日・伊サッカー交流試合<18:00>
- 24日(木) 各受け入れ家庭での生活 お別れ夕食会<20:00>
- 25日(金) 集合<8:00>チェルタルド発  
ローマ着<12:35> 昼食後、市内見学(トレビの泉、スペイン広場、パンテオン、ナボナ広場等)<12:00>  
ホテル着<21:00>
- 26日(土) ホテル発 <7:15>  
ローマ市内見学(ヴァチカン美術館、サンピエトロ寺院、システリーナ礼拝堂、真実の口、コロッセオ、カタコンベ等)  
ホテル着<20:40>
- 27日(日) ホテル発<10:00> ローマ空港着<10:40> ローマ発(アリタリア航空AZ784便)<14:45>
- 28日(月) 成田空港着<8:45>  
甘楽町役場着<15:00>

## 団員名簿

役 職	氏 名	住 所	備 考
団 長	横 尾 次 子	甘楽町大字金井	教育委員
随 行 員	田 中 高 志	〃 上野	町 職 員
〃	原 田 直 美	〃 天引	町 職 員
通 訳	一ノ瀬 俊 和	東京都稲城市矢野口	国立音楽大学准教授

氏 名	所 属	性 別	住 所	チェルタルド市受入家庭
碓 氷 武 尊	一中2-3	男	甘楽町大字造石	カルロ・ヴァンニ
江 原 佑 輔	一中3-1	男	〃 金井	CARLO VANNI
峯 岸 宗 一 郎	一中3-2	男	〃 天引	アンドレア・モッレリ
田 村 智	三中3年	男	〃 秋畑	ANDREA MORELLI
松 浦 悠 司	二中3-A	男	〃 上野	ステファノー・カラマンドレイ
新 井 健 斗	新嶋3-D	男	〃 善慶寺	STEFANO CALAMANDREI
園 田 静 香	一中3-1	女	〃 福島	ルチアーノ・ナルディ
強 矢 さつき	一中3-2	女	〃 白倉	LUCIANO NALDI
小 菅 穂 奈 実	一中3-3	女	〃 天引	ジャンカルロ・ガロージ
齋 藤 亜 耶	一中3-3	女	〃 小川	GIANCARLO GAROSI
田 村 朱 莉	二中2-A	女	〃 小幡	ルチアーノ・バンディーニ
北 村 彩 乃	二中2-B	女	〃 小幡	LUCIANO BANDINI
木 暮 葵	二中2-B	女	〃 善慶寺	ダニエーラ・カンティーニ
吉 田 裕 美	二中3-A	女	〃 上野	DANIELE CANTINI
高 麗 史 織	二中3-A	女	〃 国峰	ネヴィオ・ヴァンニ
関 夏 季	二中3-B	女	〃 上野	NEVIO VANNI

# 第12次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団

## 研修概要－2008年8月(平成20年)－

- 15日(金) 甘楽町役場出発<6:00>成田空港着<11:00>  
成田空港発(アリタリア航空AZ7787便)<13:45>ミラノマルペンサ空港着<19:00>  
ホテル着<22:00>
- 16日(土) ホテル発<10:00>  
ミラノ市内見学(スフォルツェスコ城、ドウオーモ、スカラ座、サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会等)  
ミラノ発<14:45>バスでチェルタルド市へ移動  
対面式 <19:00>
- 17日(日) 各受け入れ家庭での生活
- 18日(月) 学校教育施設及びスポーツ施設見学<9:30>  
市役所にて歓迎式<12:40>  
各受入家庭での生活
- 19日(火) チェルタルド発<8:30>受入家庭と電車でフィレンツェへ  
フィレンツェへ見学(ミケランジェロ広場、ドウオーモ、ヴェッキオ橋、ウフィッツィ美術館)  
フィレンツェ発<18:00>電車でチェルタルド各受入家庭へ
- 20日(水) 各受け入れ家庭での生活 家庭訪問(8家庭)
- 21日(木) ダボレーゼ湖フィッシングセンターにて魚釣り大会<9:30>  
お別れ夕食会<21:00>
- 22日(金) 市庁舎前集合<7:30>チェルタルド市発<8:15>  
ローマ着<12:00>市内見学(コロッセオ、フォロロマーノ、トレヴィの泉)
- 23日(土) ホテル発<9:30>  
ローマ市内見学(ヴァチカン美術館、システリーナ礼拝堂、サンピエトロ寺院、スペイン広場、カタコンベ等)  
ホテル着<21:00>
- 24日(日) ホテル発 <9:00>サンタマリア・イン・コスメディン教会、カンピドリオ広場見学  
フィウミチーノ空港(ローマ)着<12:00>  
フィウミチーノ空港(ローマ)発<14:20>
- 25日(月) 成田国際空港着<11:00>  
甘楽町役場着<17:00>帰国報告<17:15>解散<17:45>

## 団員名簿

役職	氏名	住所	備考
団長	柴山 豊	甘楽町大字福島	教育長
随員	山田 勇	〃 白倉	町職員
〃	齋藤 はるみ	〃 秋畑	町職員
通訳	一ノ瀬 俊和	東京都稲城市矢野口	国立音楽大学教授

氏名	所属	性別	住所	チェルタルド市受入家庭
佐俣 有為	一中3-1	男	甘楽町大字福島	カルロ・ヴァンニ
高橋 龍司	三中 3年	男	〃 秋畑	CARLO VANNI
齋藤 和樹	一中3-2	男	〃 金井	ステファノー・カラマンダレイ
新井 佑輔	一中3-3	男	〃 庭谷	STEFANO CALAMANDREI
金井 健司	一中3-3	男	〃 福島	マッシモ・トゥミンナロ
齋藤 優貴	一中3-3	男	〃 上野	MASSIMO TUMMINARO
金井 健人	二中2-A	男	〃 国峰	フランコ・ジャンネッリ
小間 大輔	二中2-B	男	〃 善慶寺	FRANCO GIANNELLI
富田 彩	一中2-1	女	〃 天引	ルチアーノ・ナルディ
菊池 美希	一中2-3	女	〃 白倉	LUCIANO NALDI
山本 美紀	一中2-1	女	〃 福島	ダニエーレ・カンティーニ
富岡 かれん	二中2-B	女	〃 善慶寺	DANIELE CANTINI
曲輪 ゆうみ	一中2-2	女	〃 小川	カロジェーロ・ステッラ
村田 祥子	二中2-B	女	〃 小幡	CALOGERO STELLA
齋藤 良夢	一中2-2	女	〃 白倉	ネヴィオ・ヴァンニ
横山 果奈	三中 2年	女	〃 秋畑	NEVIO VANNI



# 第13次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団

## 研修概要 - 2010年8月(平成22年) -

- 16日(月) 甘楽町役場出発<5:54>成田空港着<9:15>  
成田空港発(アリタリア航空AZ787便)<12:15>ミラノマルペンサ空港着<17:30>  
ホテル着<21:20>
- 17日(火) ホテル発<8:30>  
ミラノ市内見学(スカラ座、ドウオーモ等)  
ミラノ発<13:30>バスでチェルタルド市へ移動  
対面式 <18:30>
- 18日(水) 市内見学<9:00>  
保育園見学<10:30>  
市役所にて歓迎式<12:15>  
洋弓体験<18:00>
- 19日(木) チェルタルド市発<9:00>受入家庭と電車でフィレンツェへ  
フィレンツェ見学(ドウオーモ、ヴェッキオ橋、ウフィッツィ美術館等)
- 20日(金) 各受け入れ家庭での生活 家庭訪問(8家庭)
- 21日(土) 各受け入れ家庭での生活
- 22日(日) 各受け入れ家庭での生活  
お別れ夕食会<20:30>
- 23日(月) 市庁舎前集合<7:30>チェルタルド市発  
ローマ着<11:30>市内見学(コロッセオ、フォロマーノ、トレヴィの泉、スペイン広場)  
ホテル着<21:00>
- 24日(火) ホテル発<8:45>  
ローマ市内見学(ヴァチカン美術館、サンピエトロ大聖堂、サンピエトロ広場等)  
ホテル着<21:15>
- 25日(水) ホテル発 <8:30>サンタ・マリア・イン・コスメディン教会、カンピドリオ広場見学  
フィウミチーノ空港(ローマ)着<12:00>  
フィウミチーノ空港(ローマ)発<14:20>
- 26日(木) 成田国際空港着<10:20>  
甘楽町役場着<15:10>帰国報告後解散

## 団員名簿

役職	氏名	住所	備考
団長	黛 哲夫	甘楽町大字秋畑	国交振副会長・議会議員
随員	富田 浩	富岡市富岡	町職員
〃	富田 幸江	甘楽町大字天引	町職員
通訳	一ノ瀬 俊和	東京都稲城市矢野口	国立音楽大学教授

氏名	所属	性別	住所	チェルタルド市受入家庭
齋藤 丞馬	一中1-2	男	甘楽町大字白倉	マッシモ・タウンミナーロ
三木 大輝	一中1-2	男	〃 天引	MASSIMO TUMMINARO
時澤 美路	一中1-2	女	〃 金井	ルカ・ベルニーニ
黒澤 奈恵	一中2-1	女	〃 天引	LUCA BERNINI
山田 穂波	一中3-1	女	〃 白倉	ダンテ・ネージ
久保 美咲	一中3-2	女	〃 白倉	DANTE NESI
清水 宏剛	一中3-2	男	〃 福島	マッシモ・ラッゼーリ
田村 樹	二中2-A	男	〃 小幡	MASSIMO LAZZWRI
児玉 涼太	二中1-B	男	〃 善慶寺	レルヴァオ・ジョアオ・フィグエイラ
久保 拓也	二中1-A	男	〃 小幡	RELVAO JOAO FIGUEIRA
矢島 日向	二中2-A	男	〃 小幡	マウロ・トライーニ
田村 啓	二中2-B	男	〃 上野	MAURO TRAINI
小池 まりな	新島1-D	女	〃 福島	リド・オルシ
塚越 奈津実	新島1-D	女	〃 福島	LIDO ORSI
須田 瑤子	新島2-E	女	〃 福島	ファビオ・カンピノーティ
田中 真未	二中3-B	女	〃 善慶寺	FABIO CAMPINOTI

# 第14次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団

## 研修概要 - 2012年8月(平成24年) -

- 15日(水) 甘楽町役場出発<7:00>成田空港着<10:15>  
成田空港発(アリタリア航空AZ785便)<13:15>フィウミチーノ空(ローマ)着<18:43>  
ホテル着<21:45>
- 16日(木) ホテル発<9:00>  
ローマ市内見学(コロッセオ、サンタ・マリア・イン・コスメディン教会等)  
サンカリストロ見学(カタコンベ)  
ローマ市内見学(トレビの泉、スペイン広場等)  
ホテル着<20:30>
- 17日(金) ホテル発<8:30>  
ヴァチカン市国見学(ヴァチカン美術館、サンピエトロ大聖堂等)  
ローマ発<13:40>バスでチェルタルド市へ移動  
対面式 <17:30>
- 18日(土) 市役所にて歓迎式<10:00>  
各受け入れ家庭での生活 家庭訪問(1家庭)
- 19日(日) チェルタルド市発<8:45>受入家庭主催のバスツアーでピサへ
- 20日(月) 各受け入れ家庭での生活 家庭訪問(7家庭)
- 21日(火) チェルタルド発<8:00>受入家庭と電車でフィレンツェへ  
フィレンツェへ見学(ドゥオモ、ヴェッキオ橋、ウフィッツィ美術館等)
- 22日(水) チェルタルド市発<9:00>受入家庭主催のバスツアーでヴィンチ村へ  
ヴィンチ村見学(レオナルド・ダ・ヴィンチ生家等)  
チェルタルド市着<13:15>各受入家庭へ  
お別れ夕食会<20:00>
- 23日(木) 市庁舎前集合<7:15>チェルタルド市発<7:30>  
ミラノ着<12:10>市内見学(スカラ座、ドゥオモ、サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会等)  
ホテル着<19:45>
- 24日(金) ホテル発 <9:00>サン・シーロ競馬場、サッカー場見学  
マルペンサ空港(ミラノ)着<12:00>  
マルペンサ空港(ミラノ)発<14:35>
- 25日(土) 成田国際空港着<9:25>  
甘楽町役場着<15:00>帰国報告後解散

## 団員名簿

役職	氏名	住所	備考
団長	野口 英明	甘楽町大字白倉	教育委員長
随員	田村 昌徳	" 善慶寺	町職員
"	大河原 敦子	" 小幡	町職員
通訳	一ノ瀬 俊和	東京都稲城市矢野口	国立音楽大学教授

氏名	所属	性別	住所	チェルタルド市受入家庭
小 柏 結	一中2-1	女	甘楽町大字天引	ファブリッツィオ・ムニャイーニ
堀 口 桃 香	一中2-1	女	" 小川	FABRIZIO MUGNAINI
勅使河原 有希	一中2-1	女	" 小川	ルチアーノ・ジョヴァンネッティ
池 田 ひな乃	一中2-2	女	" 小川	LUCIANO GIOVANNETTI
堀 口 琴 乃	一中2-1	女	" 小川	イタロ・ペコレッティ
金 井 理 沙	一中3-1	女	" 福島	ITALO PECORETTI
村 田 真 子	二中1-A	女	" 小幡	ダンテ・ネーズィ
田 中 里 奈	二中3-B	女	" 小幡	DANTE NESI
黒 澤 勇 星	一中2-2	男	" 造石	ファビオ・ヴェッキヤレリ
富 岡 皇 貴	二中1-B	男	" 善慶寺	FABIO VECCHIARELLI
根 岸 敬 介	一中3-1	男	" 福島	エリアーノ・アルジッリ
宮 代 典 明	一中3-2	男	" 白倉	ELIANO ARZILLI
加 藤 大 虎	二中2-A	男	" 秋畑	ヴァレリオ・ベッシ
堀 口 晴 輝	二中2-A	男	" 上野	VALERIO BESSI
松 田 祐 斗	二中2-A	男	" 善慶寺	アントニオ・カロッシ
丸 澤 幹 仁	二中2-A	男	" 善慶寺	ANTONIO CALOSI

# 甘楽町国際交流年表

## 1983年(昭和58年)

4月 9日	県主催の「ふるさと巡回サロン」が甘楽町で開催される イタリア女流ジャーナリストのカルラ・ヴァシオ女史とエツレ・コロー氏(イタリア文化会館)を招き町内5名県内5名の女性との懇談会が開催され、その際ヴァシオ女史よりイタリア・チェルタルド市との姉妹都市提携が提案される チェルタルド市長あてに町長よりメッセージを送る
4月～7月	県(地域振興課)、イタリア文化会館などの側面的協力を得る
7月15日	チェルタルド市長へ姉妹都市関係樹立について文書を送る
7月23日	チェルタルド市長より姉妹都市協定の締結と使節団招待の正式文書到達
7月27日	町議会へ姉妹都市協定について経緯を報告、今後の運び方を説明
8月10日	姉妹都市協定書(原案)をチェルタルド市長へ送付
8月29日	姉妹都市協定書原案についての同意文書がチェルタルド市長より到達
9月12日	9月定例議会で姉妹都市協定書議決
10月 1日～2日	地域文化交流まつりに在日イタリア人7家族31人が来町した際、秋畑地区の民家に分宿し、地元のお祭りや行事に参加し交流を深める
10月19日	第1次チェルタルド市訪問甘楽町使節団を派遣 (11名、26日帰国)
10月20日	チェルタルド市プレトリオ宮殿にて友好親善姉妹都市協定書に調印
11月 3日	イタリア展を開催 以後、役場ロビーにて姉妹都市交流の関係資料を展示

## 1984年(昭和59年)

4月14日	第1次チェルタルド市使節団甘楽町を表敬訪問 (10名、17日帰国)
8月23日	町企画課長がチェルタルド市を訪問し、ワインの輸入などについて協議

## 1985年(昭和60年)

3月～	チェルタルド市よりイタリアワインを直輸入し、物産センターにて販売
5月18日	国際交流基金チャリティー事業として、「イタリア音楽テノールリサイタル」開催 (小幡小体育館)
6月26日	中学生の文通について、関係者(中学校先生ほか)打合せ 以後チェルタルド市中中学生との文通が始まる
7月29日	イタリア語文化講座を開催(～8月9日) (講師:一ノ瀬俊和氏)
10月20日	第2次チェルタルド市訪問甘楽町使節団を派遣 (12名、30日帰国)

## 1986年(昭和61年)

4月23日	甘楽町国際交流振興協会設立総会が開催される
6月28日	イタリア語文化講座を開催(～7月8日) (講師:一ノ瀬俊和氏)
7月18日	第1次甘楽町中学生国際交流研修団をチェルタルド市へ派遣 (25名、内中学生20名、27日帰国)
8月 4日	第2次チェルタルド市使節団が甘楽町を表敬訪問 (21名、4日間滞在)

## 1987年(昭和62年)

5月 7日	英会話教室を開催 (～3月31日) (講師:ヌルハン・ヨセフィー氏)
8月 7日	イタリア語文化講座を開催(～9月29日) (講師:一ノ瀬俊和氏)
10月18日	第3次チェルタルド市訪問甘楽町使節団を派遣 チェルタルド市で甘楽町展開催 (11名、28日帰国) ツバキの木100本をチェルタルド市へ贈呈
11月30日	中国内モンゴル歌舞団が来町

## 1988年(昭和63年)

2月12日	財団法人甘楽町国際交流振興協会設立
5月12日	初級英会話教室を開催(～3月30日) (講師:ヌルハン・ヨセフィー氏)



5月13日	イタリア語文化講座を開催(～12月9日) (講師:一ノ瀬俊和氏)
5月17日	楽しい英会話教室を開催(～11月15日) (講師:和田穹男)
7月25日	設立記念事業「パスポート取得事業」 の実施
8月 1日	英語指導助手(ALT)としてキャサリン・ オースターさんが着任
8月20日	第2次甘楽町中学生国際交流研修団 をチェルタルド市へ派遣 (25名、内中学生20名、30日帰国)
11月10日	「国際交流のまち」実施市町村として、 自治省の指定を受ける
11月26日 ～29日	設立記念事業 国交振「台湾ツアー」の実施

### 1989年(平成元年)

3月	ブドウの木合唱団(東京)がチェルタル ド市でコンサート開催
5月 1日	チェルタルド市長ネヴィオ・ヴァンニ氏 甘楽町を訪問 (5日間滞在)
5月11日	初級英会話教室を開催(～3月29日) (講師:ヌルハン・ヨセフィー氏)
5月15日	中国哈爾濱市へ第1次甘楽町視察団 出発 (3名、22日帰国)
5月19日	イタリア語文化講座を開催(～1月26日) (講師:一ノ瀬俊和氏)
5月24日	楽しい英会話教室を開催(～1月10日) (講師:和田穹男氏)
8月 1日	英語指導助手(ALT)としてクリストファ ー・シロタさんが着任
10月 8日 ～10日	哈爾濱市児童書画作品展を開催
10月 8日 ～15日	町発足30周年記念事業として、チェル タルド市より絵画を借り受け「ボッカチ オ記念絵画展」を開催
10月18日 ～22日	東京都北区において「ボッカチオ記念 絵画展」を開催
10月25日	第4次チェルタルド市訪問甘楽町使節 団を派遣 (20名、11月6日帰国)

### 1990年(平成2年)

3月	「国際交流アラカルト」「伊語及び英語 町紹介パンフレット」を作成
4月 8日	城下町小幡さくらまつり武者行列に4

	カ国31名の外国人(東京在住留学生 など)が参加
4月13日	イタリア語講座を開催 (～1月25日) (講師:一ノ瀬俊和氏)
5月	町内小中学生の書画等を哈爾濱市へ 送付
5月 9日	楽しい英会話教室を開催(～10月3日) (講師:和田穹男氏)
6月 5日	哈爾濱市へ第2次甘楽町視察団出発 (8名、11日帰国)
6月21日 ～26日	使節団員として訪伊した滝上祥一郎 氏による写真展「中世の余光チェルタ ルド」が開催される
8月 6日	第3次チェルタルド市使節団甘楽町を 表敬訪問 (20名、11日帰国)
8月17日	第3次甘楽町中学生国際交流研修団 をチェルタルド市へ派遣 (25名、内中学生20名、29日帰国)
10月 4日	英会話教室を開催 (～3月14日) (講師:クリストファー・シロタ氏)
11月	哈爾濱市児童書画作品を展示
11月 8日	哈爾濱市医科大学講師劉蓬海氏研修 生として来日 (～1992年8月8日)
12月15日 ～1月 6日	チェルタルド市で滝上祥一郎氏写真展 「中世の余光チェルタルド」が開催され る

### 1991年(平成3年)

2月 1日 ～7日	チェルタルドの額縁展及びファヴィオ・ カルヴェッティ氏の個展「ラ・フォルマ イル・コロレー」を甘楽町で開催
2月 9日 ～16日	ファヴィオ・カルヴェッティ氏個展を横 浜で開催
2月19日 ～25日	チェルタルドの額縁展及びファヴィオ・ カルヴェッティ氏個展を東京都北区で 開催
4月12日	イタリア語講座を開催 (～1月25日) (講師:一ノ瀬俊和氏)
4月14日	城下町小幡さくらまつり武者行列に8 カ国25名の外国人(東京在住留学生 など)が参加
5月	中国語講座を開催(～9月)
5月16日	チェルタルド市長ネヴィオ・ヴァンニ氏 甘楽町を訪問 (6日間滞在)
5月18日	第1次哈爾濱市使節団が来町

	(5名、10日間滞在)
5月30日	ファヴィオ・カルヴェッティ氏個展「イン
～6月 4日	ナー・ヴィジョン」を富岡市で開催
7月19日	第5次チェルタルド市訪問甘楽町使節団を派遣 (18名、31日帰国)
8月 1日	英語指導助手(ALT)としてマイケル・ガラントさんが着任
8月26日	第1次哈爾濱市訪問甘楽町使節団を派遣 (11名、9月2日帰国)
8月29日	哈爾濱市教育委員会と友好交流覚え書(概要)
11月22日	町内小中学生の書画等をチェルタルド市及び哈爾濱市へ送付

### 1992年(平成4年)

3月27日	甲府市アマチュア合唱団チェルタルド市でコンサート開催
4月 9日	第2次哈爾濱市使節団が来町 (3名、6日間滞在)
4月12日	城下町小幡さくらまつり武者行列に8カ国31名の外国人(東京在住留学生など)が参加
4月17日	イタリア語講座を開催 (～1月28日) (講師:一ノ瀬俊和氏)
7月26日	第1次チェルタルド市青年使節団が来町 (14名、9日間滞在)
8月17日	第4次甘楽町中学生国際交流研修団をチェルタルド市へ派遣 (24名、内中学生20名、29日帰国)
11月 2日	チェルタルド市長ネヴィオ・ヴァンニー一家甘楽町を訪問 (6日間滞在)
11月26日	哈爾濱市より工業研修生13名が来町
12月12日	柳沢正人氏個展「刻(とき)」プレトリオ宮殿で開催

### 1993年(平成5年)

3月	町内小学生の書画を哈爾濱市へ送付
4月	マイクロバスを哈爾濱市へ贈呈
4月11日	城下町小幡さくらまつり武者行列に6カ国24名の外国人(研修生、町内在住外国人など)が参加
4月14日	町内小中学生の書画等をチェルタルド市へ送付
4月16日	イタリア語講座を開催 (～1月28日) (講師:一ノ瀬俊和氏)

7月19日	甘楽町芸能使節団をチェルタルド市へ派遣 夏祭りメルカンティアに出演 (12名、26日帰国)
7月21日	英語指導助手(ALT)としてエリザベス・ホルトンさんが着任
7月22日	神戸市のコーラスグループ「アンサンブル須磨」メルカンティアに出演
8月 2日	第2次チェルタルド市青年使節団が来町 (18名、9日間滞在)
10月 5日	中国語講座を開催 (～2月) (講師:佐俣福艶氏)
10月11日	第6次チェルタルド市訪問甘楽町使節団を派遣 (19名、21日帰国)
10月16日	チェルタルド市プレトリオ宮殿にて友好親善姉妹都市協定締結10周年共同宣言書に調印 財団法人甘楽町国際交流振興協会からチェルタルド市へ茶室贈呈
10月20日	哈爾濱市より王興仁氏が来町
11月24日	哈爾濱市工業研修生及び王興仁氏が帰国
11月30日～12月6日	柳沢正人氏個展「刻(とき)」を甘楽町で開催

### 1994年(平成6年)

1月23日	10周年記念事業として町民文化講座(楽しい旅そして国際交流)の共催 (講師:女優 中野良子氏)
2月 3日～4日	10周年記念事業として町内3中学校を巡回してイタリアについての講演会 (講師:一ノ瀬俊和氏)
3月	チェルタルド市姉妹都市交流 10周年記念事業として記念誌作成『一粒の麦』
4月10日	城下町小幡さくらまつり武者行列に7カ国15名の外国人(町内在住外国人など)が参加
4月15日	イタリア語講座を開催 (～1月28日) (講師:一ノ瀬俊和氏)
5月26日	第2次哈爾濱市訪問甘楽町使節団を派遣 (17名、6月2日帰国)
8月 1日	第4次チェルタルド市使節団甘楽町を表敬訪問 (16名、6日間滞在)
8月17日	第5次甘楽町中学生国際交流研修団をチェルタルド市へ派遣 (24名、内中学生20名、29日帰国)

10月	町内小中学生の書画等をチェルタルド市及びハルビン市へ送付
11月	第5次甘楽町中学生国際交流研修団報告記の作成
11月16日	チェルタルド市より中学生による文通の申入
12月11日	文化講演会「豊か心、豊かな家族」の共催 (講師: NHKアナウンサー広瀬久美子氏)

### 1995年(平成7年)

1月12日	チェルタルド市へ甘楽町中学生23名の手紙を送付
1月18日	町内小中学生の書画等をチェルタルド市及びハルビン市へ送付
3月11日	チェルタルド市中学生より19通の手紙到達
4月14日	イタリア語講座を開催 (講師: 一ノ瀬俊和氏)
4月14日 ～16日	ファヴィオ・カルヴェッティ氏絵画展のため来日、甘楽町表敬訪問
4月16日	城下町小幡さくらまつり武者行列に6カ国17名の外国人(町内在住外国人など)が参加
5月 2日 ～26日	松井千明氏による写真展(Buongiorno Italia 你好中国)が文化会館で開催
10月 1日	第3次ハルビン市訪問甘楽町使節団を派遣 (17名、8日帰国)
10月19日	町内小中学生の書画等をチェルタルド市及びハルビン市へ送付
10月22日	国際交流祭参加(前橋市)
11月16日 ～1月29日	ハルビン市児童・生徒絵画作品展 (甘楽町文化会館)

### 1996年(平成8年)

4月14日	城下町小幡さくらまつり武者行列に5カ国12名の外国人(町内在住外国人など)が参加
4月19日	イタリア語講座を開催 (～1月) (講師: 町田 亘氏)
5月 8日	第4次ハルビン市訪問甘楽町使節団を派遣 (6名、16日帰国)
6月14日	チェルタルド市よりジョヴァンニ・ボッカチオの胸像を受贈
7月15日	第1次ハルビン市中学生研修団が来町

7月22日	(児童・生徒10名、教師10名、22日帰国) 英語指導助手(ALT)としてクレア・ステンニングさんが着任
8月16日	第6次甘楽町中学生国際交流研修団をチェルタルド市へ派遣 (24名、28日帰国)
12月	町内小中学生の書画等をチェルタルド市及びハルビン市へ送付
12月10日	チェルタルド市長を代表とする使節団が来町 (3名、15日帰国)
12月11日	ボッカチオ胸像除幕式

### 1997年(平成9年)

2月	第6次甘楽町中学生国際交流研修団報告記の作成
4月13日	城下町小幡さくらまつり武者行列に4カ国7名の外国人(町内在住外国人など)が参加
5月23日	イタリア語講座を開催 (～12月) (講師: 町田 亘氏)
7月	英語指導助手(ALT)としてミッシェル・コーリーさんが着任
9月22日	第7次チェルタルド市訪問甘楽町使節団を派遣 (20名、10月1日帰国) 滞在中、ミケーレ・フラミア氏よりフレスコ画を受贈 (甘楽町文化会館)
10月27日	ハルビン市より行政研修生として孫鳳喜氏が来町(1年間)
12月 7日	チェルタルド市名誉市民アラン氏が来町
12月	町内小中学生の書画等をチェルタルド市及びハルビン市へ送付

### 1998年(平成10年)

4月12日	城下町小幡さくらまつり武者行列に5カ国14名の外国人(町内在住外国人など)が参加
5月 8日	イタリア語講座を開催(～12月、15回) (講師: 町田 亘氏)
8月 3日	第3次ハルビン市使節団が来町 (2名、10日帰国)
8月14日	第7次甘楽町中学生国際交流研修団をチェルタルド市へ派遣 (20名、26日帰国)
8月17日	第1次甘楽町中学生国際交流研修団

10月23日 を哈爾濱市へ派遣(20名、24日帰国)  
哈爾濱市行政研修生孫鳳喜氏が帰国

**1999年(平成11年)**

3月 第7次甘楽町中学生国際交流研修団  
及び第1次甘楽町中学生国際交流研  
修団報告記の作成

3月 町内小中学生の書画等をチェルタルド  
市及び哈爾濱市へ送付

4月 4日 城下町小幡さくらまつり武者行列に7  
カ国9名の外国人(町内在住外国人  
など)が参加

5月 7日 イタリア語講座を開催(～12月、15回)  
(講師:町田 亘氏)

5月24日 第5次哈爾濱市訪問甘楽町使節団を  
派遣 (18名、31日帰国)

6月 2日 中国語講座を開催 (～11月、10回)  
(講師:佐俣福艶氏)

7月 英語指導助手(ALT)としてピーター・  
ブロートンさんが着任

8月 2日 第2次哈爾濱市中学生研修団(少年宮  
芸術団)が来町 (21名、9日帰国)

8月 3日 第3次チェルタルド市青年使節団来町  
(15名、12日帰国)

**2000年(平成12年)**

3月 町内小中学生の書画等をチェルタルド  
市及び哈爾濱市へ送付

4月 9日 城下町小幡さくらまつり武者行列に4  
カ国13名の外国人(町内在住外国人  
など)が参加

5月12日 イタリア語講座を開催(～12月、15回)  
(講師:町田 亘氏)

5月16日 中国語講座を開催 (～11月、15回)  
(講師:佐俣福艶氏)

8月14日 第8次甘楽町中学生国際交流研修団  
をチェルタルド市へ派遣  
(20名、26日帰国)

8月18日 第2次甘楽町中学生国際交流研修団  
を哈爾濱市へ派遣(20名、25日帰国)

**2001年(平成13年)**

1月 第8次甘楽町中学生国際交流研修団  
及び第2次甘楽町中学生国際交流研  
修団報告記の作成

3月 町内小中学生の書画等をチェルタルド

市及び哈爾濱市へ送付  
4月 8日 城下町小幡さくらまつり武者行列に3  
カ国8名の外国人(町内在住外国人  
など)が参加

4月20日 第4次哈爾濱市使節団(教育委員会)  
が来町 (4名、21日帰国)

5月11日 イタリア語講座を開催(～12月、15回)  
(講師:町田 亘氏)

6月 5日 中国語講座を開催 (～12月、15回)  
(講師:佐俣福艶氏)

8月 1日 「東洋と西洋 終わり無き美の神秘」  
～26日 甘楽町絵画展の開催(甘楽町文化会館)

8月 6日 英語指導助手(ALT)としてケンドラ・  
アン・リッチーさんが着任

8月 6日 第3次哈爾濱市中学生研修団来町  
(20名、内中学生14名、13日帰国)

8月25日 テアトロ・キズメット「美女と野獣」甘楽  
町公演を開催

12月 1日 チェルタルド市茶室「甘楽庵」周辺整備  
～25日 資料展の開催(ギャラリー大手門)

**2002年(平成14年)**

2月 4日 第5次哈爾濱市使節団(教育委員会)  
が来町 (4名、5日帰国)

3月 町内小中学生の書画等をチェルタルド  
市及び哈爾濱市へ送付

4月14日 城下町小幡さくらまつり武者行列に5  
カ国9名の外国人(町内在住外国人  
など)が参加

5月 7日 中国語講座を開催 (～12月、15回)  
(講師:佐俣福艶氏)

5月10日 イタリア語講座を開催(～12月、15回)  
(講師:町田 亘氏)

8月 5日 英語指導助手(ALT)としてアレスター・  
ジェームス・プリンスさんが着任

8月17日 第9次甘楽町中学生国際交流研修団  
をチェルタルド市へ派遣  
(20名、29日帰国)

8月19日 第3次甘楽町中学生国際交流研修団  
を哈爾濱市へ派遣(20名、26日帰国)

9月25日 第8次チェルタルド市訪問甘楽町使節  
団を派遣 (24名、10月2日帰国)

11月27日 第6次哈爾濱市使節団(放送大学代表  
団)が来町 (7名、28日帰国)

12月19日 第7次哈爾濱市使節団(教育代表团)



	が来町	(4名、20日帰国)
<b>2003年(平成15年)</b>		
1月	第9次甘楽町中学生国際交流研修団及び第3次甘楽町中学生国際交流研修団報告記の作成	
2月	町内小中学生の書画等をチェルタルド市及びハルビン市へ送付	
4月 6日	城下町小幡さくらまつり武者行列に2カ国5名の外国人(町内在住外国人など)が参加	
5月13日	中国語講座を開催(～12月、15回) (講師:佐俣福艶氏)	
5月15日	アダルトのための英会話教室を開催(～7月、10回) (講師:アレスター・ジェームス・プリンス氏)	
5月16日	イタリア語講座を開催(～11月、15回) (講師:町田 亘氏)	
<b>2004年(平成16年)</b>		
2月 6日	第4次ハルビン市中学生研修団が来町 (20名、13日帰国)	
2月24日	チェルタルド市長を代表とする使節団が来町 (4名、29日帰国)	
2月27日	イタリア街道記念碑除幕、記念植樹、20周年記念共同宣言書調印式	
2月27日	柳沢正人、ファヴィオ・カルヴェッティ	
～3月21日	2人展「星を夢み、時空を超えて」開催	
2月27日	滝上祥一郎氏写真展「中世の余光チェルタルド」開催	
～3月 7日		
3月 9日	松井千明氏写真展「ブオンジョルノ イタリア」開催	
～21日		
3月	チェルタルド市姉妹都市交流 20周年記念事業として記念誌作成『一粒の麦Ⅱ』	
3月19日	町内小中学生の書画等をチェルタルド市及びハルビン市へ送付	
5月11日	中国語講座を開催(～11月、15回) (講師:佐俣福艶氏)	
5月21日	イタリア語講座を開催(～12月、15回) (講師:町田 亘氏)	
7月26日	英語指導助手(ALT)としてヨシユキ・ゴヤさん、ローラ・ネリー・バスケさんが着任	
7月31日	アフリカ・ウガンダ少年野球チームが来町、甘楽二中野球部と親善試合等で交	

	流	(15名、8月4日帰国)
8月14日	第10次甘楽町中学生国際交流研修団をチェルタルド市へ派遣 (20名、25日帰国)	
8月16日	第4次甘楽町中学生国際交流研修団をハルビン市へ派遣(18名、23日帰国)	
9月 4日	初級英会話スクールを開催(～2月、22回) (講師:アンドリュー・ウェッセル氏)	
<b>2005年(平成17年)</b>		
1月	第10次甘楽町中学生国際交流研修団及び第4次甘楽町中学生国際交流研修団報告記の作成	
2月	町内小中学生の書画等をチェルタルド市及びハルビン市へ送付	
5月10日	中国語講座を開催(～11月、15回) (講師:佐俣福艶氏)	
7月25日	英語指導助手(ALT)としてイボンヌ・ロさんが着任	
8月 1日	第5次ハルビン市中学生研修団が来町 (19名、8日帰国)	
8月17日	第4次チェルタルド市青年使節団が来町 (17名、24日帰国)	
11月 4日	第9次チェルタルド市訪問甘楽町使節団を派遣 (20名、12日帰国)	
<b>2006年(平成18年)</b>		
2月 2日	チェルタルド市及びハルビン市絵画等作品展を開催 (甘楽町文化会館)	
～19日		
2月	町内小中学生の書画等をチェルタルド市及びハルビン市へ送付	
5月 9日	中国語講座を開催(～11月、15回) (講師:佐俣福艶氏)	
7月 8日	文化交流使節団をチェルタルド市へ派遣 (5名、15日帰国)	
8月16日	第11次甘楽町中学生国際交流研修団をチェルタルド市へ派遣 (20名、28日帰国)	
8月18日	第5次甘楽町中学生国際交流研修団をハルビン市へ派遣(15名、25日帰国)	
12月	第11次甘楽町中学生国際交流研修団及び第5次甘楽町中学生国際交流研修団報告記の作成	

**2007年(平成19年)**

2月 2日	チェルタルド市長を代表とする使節団が来町 (3名、7日帰国)
4月13日	ニュージーランド オタキカレッジ生徒が来町 (15名、20日帰国)
5月15日	中国語講座を開催 (～11月、15回) (講師:佐俣福艶氏)
5月18日	イタリア語講座を開催(～12月、15回) (講師:横山修一郎氏)
7月30日	英語指導助手(ALT)としてケネス・アセリーさんが着任
8月 3日	第6次哈爾濱市中学生研修団が来町 (20名、10日帰国)
8月 6日	英語指導助手(ALT)としてクリスタル・ハミルトンさんが着任
8月17日	第6次甘楽町中学生国際交流研修団を哈爾濱市へ派遣(15名、24日帰国)
8月17日	町内小中学生の書画等を哈爾濱市へ送付
10月 5日	チェルタルド市文化交流使節団来町 (3名、13日帰国)
10月 2日 ～ 7日	文化交流展覧会を開催 (甘楽町文化会館)
10月11日 ～17日	文化交流展覧会を開催 (東京都北区「北とぴあ」)
10月24日	第8次哈爾濱市使節団が来町(教育代表団) (6名、26日東京へ)
12月	第6次甘楽町中学生国際交流研修団報告記の作成

**2008年(平成20年)**

2月 8日	哈爾濱市「氷まつりツアー」の実施 (26名、11日帰国)
5月20日	中国語講座を開催 (～10月、15回) (講師:佐俣福艶氏)
5月23日	イタリア語講座を開催(～11月、15回) (講師:横山修一郎氏)
8月 1日	第5次チェルタルド市青年使節団が来町 (16名、7日帰国)
8月15日	第12次甘楽町中学生国際交流研修団をチェルタルド市へ派遣 (20名、25日帰国)
8月15日	町内小中学生の書画等をチェルタルド市へ送付
11月22日	友好親善姉妹都市協定締結25周年、

12月	第10次チェルタルド市訪問甘楽町使節団を派遣、チェルタルド市にて記念式典を開催 (10名、30日帰国)
12月	第12次甘楽町中学生国際交流研修団報告記の作成

**2009年(平成21年)**

4月10日 ～17日	ニュージーランド オタキカレッジ生徒が来町 (18名)
5月17日	チェルタルド市訪問ツアーの実施 (16名、24日帰国)
5月19日	中国語講座を開催 (～10月、15回) (講師:佐俣福艶氏)
7月27日	英語指導助手(ALT)としてトーマス・シューマツハーさん、ジャクリーン・ケントさんが着任
8月 3日	第7次哈爾濱市中学生研修団が来町 (20名、10日帰国)
8月17日	第7次甘楽町中学生国際交流研修団を哈爾濱市へ派遣(19名、24日帰国)
8月17日	町内小中学生の書画等を哈爾濱市へ送付
9月19日	甄培徳氏が来町
10月31日	チェルタルド市使節団が来町 町発足50周年記念式典に参列 (6名、11月4日帰国)
11月 2日	第9次哈爾濱市使節団が来町 町発足50周年記念式典に参列(教育局6名、市政府1名、大使館員1名)(教育局、大使館員は4日東京へ、市政府は6日帰国)
12月	第7次甘楽町中学生国際交流研修団報告記の作成

**2010年(平成22年)**

2月20日	ニュージーランド オタキ市訪問使節団を派遣 (8名、25日帰国)
5月13日	北京・哈爾濱市訪問ツアーの実施 (32名、17日帰国)
5月25日	中国語講座を開催 (～10月、15回) (講師:佐俣福艶氏)
7月26日	英語指導助手(ALT)としてレイチエル・タケットさんが着任
8月 1日	第6次チェルタルド市青年使節団が来町 (14名、7日帰国)

8月16日	第13次甘楽町中学生国際交流研修団をチエルタルド市へ派遣 (20名、26日帰国)
8月16日	町内小中学生の書画等をチエルタルド市へ送付
9月30日	ニュージーランド ハミルトン市セントジョーンズカレッジ生徒が来町 (11名、10月3日帰国)
11月 5日	第11次チエルタルド市訪問甘楽町使節団を派遣、チエルタルド市・哈爾濱市と会談 (10名、14日帰国)
12月	第13次甘楽町中学生国際交流研修団報告記の作成

### 2011年(平成23年)

5月24日	中国語講座を開催 (～10月、15回) (講師:佐俣福艶氏)
7月 7日	チエルタルド市からの東日本大震災義援金を岩手県大船渡市綾里小学校へ届ける
8月 1日	英語指導助手(ALT)としてマークス・コールさんが着任
8月	町内小中学生の書画等を哈爾濱市へ送付
12月 3日 ～ 6日	ニュージーランド オタキカレッジ生徒が来町 (11名)

### 2012年(平成24年)

1月22日	第10次チエルタルド市使節団が来町 (10名、25日帰国)
5月16日	中国語講座を開催 (～10月、15回) (講師:佐俣福艶氏)
7月29日	第7次チエルタルド市青年使節団が来町 (14名、8月3日帰国)
8月 6日	英語指導助手(ALT)としてキンバリー・サンさんが着任
8月15日	第14次甘楽町中学生国際交流研修団をチエルタルド市へ派遣 (20名、25日帰国)
8月15日	町内小中学生の書画等をチエルタルド市へ送付 (60作品)
11月20日	財団法人甘楽町国際交流振興協会が第17回群馬県国際交流賞を受賞
12月	第14次甘楽町中学生国際交流研修団報告記の作成

### 2013年(平成25年)

2月 4日	ニュージーランド・オタキ市訪問ツアーの実施 (19名、9日帰国)
4月 1日	公益財団法人甘楽町国際交流振興協会へ移行
4月12日 ～16日	ニュージーランド オタキカレッジ生徒が来町 (9名)
5月21日	中国語講座を開催 (～10月、15回) (講師:佐俣福艶氏)
7月29日	第8次哈爾濱市中学生研修団が来町 (20名、4日帰国)
8月 4日	町内小中学生の書画等を哈爾濱市へ送付
10月19日	友好親善姉妹都市協定締結30周年、第12次チエルタルド市訪問甘楽町使節団を派遣、チエルタルド市にて記念式典を開催 (9名、28日帰国)

### 2014年(平成26年)

1月31日	第11次チエルタルド市使節団が来町 町発足55周年記念・姉妹都市協定締結30周年記念式典に参列 (9名、2月4日帰国)
2月 2日 ～23日	甘楽町・チエルタルド市友好親善姉妹都市協定締結30周年記念事業 「ボッカチオ生誕700年絵画展」開催
5月27日	中国語講座を開催 (～10月、15回) (講師:佐俣福艶氏)
5月29日	(一財)甘楽町都市農村交流協会職員をピザ研修のためチエルタルド市へ派遣 (1名、8月25日帰国)
7月	姉妹都市協定締結30周年記念碑を設置
7月28日	第8次チエルタルド市青年使節団が来町 (7名、8月3日帰国)
8月15日	第15次甘楽町中学生国際交流研修団をチエルタルド市へ派遣 (20名、25日帰国)
8月15日	町内小中学生の書画等をチエルタルド市へ送付 (60作品)
12月	第15次甘楽町中学生国際交流研修団報告記の作成

## 平成26年度 甘楽町中学生国際交流研修団報告記

2014年12月発行

### 発行・編集

公益財団法人甘楽町国際交流振興協会

群馬県甘楽郡甘楽町大字小幡161-1

甘楽町役場内 〒370-2292

TEL 0274-74-3131

FAX 0274-74-5813

E-mail kikaku@town.kanra.lg.jp

URL <http://www.town.kanra.lg.jp>